

# 公益社団法人日本看護科学学会 2021年12月社員総会 議事録

日 時：2021年12月3日（金）16:00～17:40

場 所：公益社団法人日本看護科学学会事務所

総社員数：312名

出席社員数：231名（オンライン出席100名、委任状123名、議決権行使8名）

出席理事・監事：堀内成子（理事長）、法橋尚宏（副理事長）

（うち15人社員）池田真理、石橋みゆき、井上智子、江藤宏美、大久保暢子、亀井智子、近藤暁子、  
須釜淳子、手島恵、仲上豪二郎、中村幸代、深堀浩樹、宮下光令  
南裕子（監事）、村嶋幸代（監事）（以上50音順。全員オンライン出席）

議 長：堀内成子（理事長）

議事録作成：賀沢弥貴（愛知県立大学）、有田孝行（公益社団法人日本看護科学学会事務所長）

## 開 会

開会時、オンライン出席者数47名（うち理事・監事15名）、有効委任状・議決権行使131名、総計178名であり、日本看護科学学会定款第23条および第24条に定められた要件を満たしており、公益社団法人日本看護科学学会2021年12月社員総会を開催する旨が伝えられた。司会は法橋尚宏副理事長、書記は賀沢弥貴（愛知県立大学）、有田孝行（公益社団法人日本看護科学学会事務所長）で行なわれ、オンライン会議システムにより、出席者の映像及び音声は即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることが確認され、開会した。

## II. 理事長挨拶

堀内成子理事長より、以下の挨拶があった。

師走の忙しい時間に日本看護科学学会2021年度12月社員総会にご参加いただき感謝申し上げます。代議員である皆様のご協力があり今年度も学会の活動が進んでいる。

COVID-19のデルタ株の収束にホッとしたのも束の間、さらに変異株のオミクロン株に悩まされるという事態になり、次のフェーズに移っている。しかし、コロナ禍の中においても皆様方の教育・研究、あるいは実践活動はそれぞれ工夫を凝らして日々行っていると思う。活動を継続する皆様方の熱意や努力には心から敬意を表している。また、コロナ感染拡大の中、医療従事者の皆様、あるいは地域で活動をされている皆様には本当に頭が下がる思いである。日本看護科学学会は今年度、第41回の学術集会を開催できることとなっており、大変喜ばしいことである。日頃の教育・研究・実践の成果をこの学術集会で発表し、併せて研究者同士の交流が活発になればと願っている。12月で会員数が初めて1万人を超えた。会員の方々には学術集会にご参加いただき、様々な交流を通して看護学の研究を発展させていただければありがたい。本日の社員総会ではこれまでの活動報告と来年度の予算の審議、事業計画案等についてご説明し、皆様からのご意見を頂戴できればと思う。ご協力をお願いしたい。

## III. 第41回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

百瀬由美子学術集会会長より、以下の挨拶があった。

11月19日からオンラインオンデマンドの配信が始まっている。昨年に続き、今年度もオンライン開催となったが、できる限り活発に意見交換ができるようにと準備を進めてきた。今回の学術集会では特別講演を1題、教育講演を3題、それから8委員会からの協力をいただきシンポジウムを8つ、教育セミナーを4つ、ワークショップを3つ、うち2つはワークショップの内容から定員・予約制とし、すでに定員となっている。もう1つのワークショップは当日参加も可能な設定としている。ランチョンセミナーは、企業の協力を得て6つ行う予定である。また、一般演題は口演と示説を含め866題、そのうちイングリッシュセッションが15題となる。また、交流集会が40あり、うち1つは英語となるなど、合計906台の演題を予定している。

なお、プログラム集の発送後に演題の取り下げがあり、プログラム集と数が一致していない部分もあるが、以上が今回の学術集会の主な内容である。現在、明日からのライブ配信に向け、回線トラブルなどが無いよう、最終の準備を整えているところである。万が一トラブル等があった場合は、すぐに対処することになるが、寛容さをもって見守っていただければありがたいと思う。社員の皆様にはあらためてご協力・ご支援をお願いし、学術集会会長としての挨拶としたい。

#### IV. 議長指名および議事録署名人の承認

定款第22条3項に従い、堀内成子理事長が議長に選出された。議事録署名人は、議長から白水眞理子氏（神奈川県立保健福祉大学）と定方美恵子氏（新潟大学）の2名が推薦され、承認された。

#### V. 総務報告・理事会報告・委員会活動報告

##### 1) 総務報告〈中村幸代理事〉

議案書（P.4）に基づき、以下の報告があった。

2021年11月4日現在、正会員10,001名、名誉会員18名、賛助会員4件、会員総数10,023名である。議案書P.4の中段に記載の表は地域別会員数であり、下段の棒グラフは正会員数の推移は、2017年度9,145名で2021年度は10,001人であり、増加傾向である。

##### 2) 理事会報告〈中村幸代理事〉

議案書（P.5-8）に基づき、理事会報告があった。2021年4月1日から12月3日までに通常の理事会が5回、臨時の理事会を2回開催した。今年度はすべての理事会をオンライン開催で行っている。

##### 3) 委員会活動報告

議案書（P.13-22）に基づき、委員会活動報告があった。なお、委員会名簿を（P.9-12）に公開している。

##### (1)和文誌編集委員会〈宮下光令理事〉

日本看護科学会誌41巻をオンラインで発刊した。2021年10月13日の時点で213論文の投稿があり、前年度に比べても増加傾向にある。前年度から導入している迅速査読も順調に投稿が伸びている。査読の日数短縮を見直した新しい投稿規程は来年1月頃に出来上がる予定で進めている。第41回学術集会では交流集会を行う予定である。

##### (2)英文誌編集委員会〈江藤宏美理事〉

2004年から英文誌（Japan Journal of Nursing Science「JJNS」）を発行、2014年からはonline-only journalとして年4回の発行を実施している。活動として次の4点がある。

①JJNS Vol.18をオンラインで発刊し、2021年1月以降の投稿論文数は576編で（2021年10月17日現在）増加している。また表彰論文選考に参画した。2020年のimpact factorは1.418

で昨年より上がっている。

②2020年3月、博士論文のFast Track Review（迅速査読）の受付を開始している。2020年20編、2021年27編と増えている。

③出版社との契約更新内容は2022年以降の契約更新プロポーザルを受け取り検討中である。

④年1回JJNSセミナーを開催しており「JJNSセミナーImproving Your Success at Publishing in English 2021」はオンライン開催にて2021年12月6日～2022年1月31日に配信予定である。

### (3)表彰論文選考委員会〈亀井智子理事〉

日本看護科学学会が発行する和文誌と英文誌から優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、また、他組織からの表彰に該当する候補者の推薦などを行っている。

- ・表彰論文は和文誌、英文誌の中から賞に相応しい論文を選考した。手順として、和文誌、英文誌の各編集委員長から審査の対象論文（17編）を選定、委員会内で候補論文8編に絞り、2021年9月7日に全代議員と役員314名へメールにて採点を依頼。10月3日までに回収（回答215名・回収率68.5%）し、議案書（P.14）のとおり英文誌から優秀賞2編、奨励賞1編を決定し、理事会に報告し承認を得た。
- ・他組織からの表彰候補者について、山上の光賞（第7回）、日本学術振興会賞（第18回）、SGH看護特別賞（第19回）に、それぞれ会員の中から推薦をした。
- ・学術集会演題表彰制度の検討：第41回学術集会から適用する演題表彰制度について、規程の作成、定款施行細則を改定した。4つの賞を設け、選考は2段階で行う方法とした。第1段階は、演題抄録を登録する際の査読者2名以上による採点で候補の上位10名を選考。第2段階は、候補の学術集会当日の発表とオンデマンドでの発表をもとに表彰論文選考委員会で最終選考し、第41回学術集会の閉会式にて表彰する。

### (4)研究・学術推進委員会〈深堀浩樹理事〉

- ・日本学術振興会の「学術変革領域研究（A）」の2021年度における申請において、領域代表者の募集を行い1件採択し、さらにこの研究の計画研究代表者として参加を希望する人を募集し12件採択した。2021年1月に領域代表者から「人々が抱える生きにくさの解放的変容を可能にする意味立脚型医療学（領域略称名：生きにくさの変容）」というテーマで申請したが、5月7日にヒヤリングの対象とならなかったとの通知を受け9月17日に審査結果の所見を受け取った。2022年度「学術変革領域研究（A）」に同研究メンバーで10月5日に再申請した。この間、民間業者による領域申請支援を受けた。
- ・会員の研究の支援活動として、新たに「オンラインジャーナルクラブの実施」について検討を行った。またJANSセミナー映像のアーカイブ化についての検討を行った。
- ・第18回JANSセミナー「学術の変革をもたらすリサーチ・マインドを高めよう！」をオンライン開催した（2021年8月16日～11月30日まで）。受講者数は、2021年11月9日現在で317名（会員291名・非会員18名・基礎教育課程学生8名）である。
- ・第41回学術集会では交流集会を行う予定である。

### (5)看護ケア開発・標準化委員会〈須釜淳子理事〉

モデル事業として、本年6月に「摂食嚥下時の誤嚥・残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン」を刊行し代議員に送付、会員向けにオンラインでも公開した。その他についてはJJNSにガイドラインの一部を投稿中で、Mindsへガイドライン掲載の審査申請をしている。

第41回学術集会にて、以下の3点について進捗状況を報告する。

①2019 年度の採用ケアガイドライングループ活動の支援：「下部消化管術後患者の長期的排便障害のケアガイドライン構築のためのアセスメントガイドライン」及び「高齢者排尿誘導ガイドライン」。

②2021 年度新規ガイドラインの草案と公募(7 月 20 日～8 月 30 日)を行い、理事会にて決定した(9 月 6 日)。「看護ケアのための高齢者の便秘時の大腸便貯留アセスメントに関する診療ガイドライン」須釜淳子代表(藤田医科大学)

③日本薬理学会との共同学術企画としてインスリンボールに関するスコーピングレビューを開始した(2021 年 8 月～)

#### **(6)若手研究者活動推進委員会〈仲上豪二朗理事〉**

JANS 若手の会ホームページや JANS メーリングリストより情報発信を行った。

登録者数は 2021 年 3 月現在で 821 名であり、積極的に情報交換を行っている。

第 17 回 JANS セミナー「看護学研究の社会実装：インプリメンテーション研究とデータサイエンスの潮流」(オンデマンド配信)をオンライン開催(2021 年 3 月 22 日～5 月 31 日)し、566 名(会員 519 名・非会員 44 名・基礎教育課程学生 3 名)が参加した。

COVID-19 看護研究等対策委員会へ本委員会から委員を 3 名選出し、調査を実施した。また、エリア検討会の活動は抜本的に活動を刷新し活性化を推進した。

#### **(7)国際活動推進委員会\*世界看護科学学会を含む〈池田真理理事〉**

国際活動推進委員会を 4 回オンラインで開催した。会員が国際的な場で発信できるよう第 41 回学術集会にて交流集会「日本の看護学研究者が海外の研究者とネットワークを構築するために」を開催し、その際、今年度から実施している若手研究者助成についても説明する予定。

世界看護科学学会(WANS)事務局業務を引き続き実施した(ホームページ維持管理含む)。現在の WANS 理事長は JANS から推薦の片田委員であるが、12 月で任期満了となるため、12 月 8 日開催の WANS 理事会で選挙を実施する予定で準備を進めている。

異文化看護データベースについては都度更新を行っている。

#### **(8)看護学学術用語検討委員会〈大久保暢子理事〉**

用語の定義「セルフケア」の検討と再定義を行った。既存の 100 の用語を電子システムの構築と新しい用語の追加を行うための募集要項の作成を進めている。

JANS41 での交流集会を予定しており、「セルフケア」の新しい定義を公表し、電子システムの構築、新用語の募集に関する内容をアナウンスし意見交換を行う。また、日本看護協会主催「看護にかかわる用語の検討委員会」へ参加し、意見交換を行った。

#### **(9)社会貢献委員会〈大久保暢子理事〉**

第 41 回学術集会において、市民公開講座「感染症流行時の災害に備える ～社会的弱者の安全と健康を守る～」(オンラインにて配信)を実施しており、2021 年 11 月 29 日～12 月 28 日まで無料で視聴できる。JANS42 の「市民公開講座」の企画・検討、次世代育成事業の新企画の開催について、併せて検討を行っている。

#### **(10)広報委員会〈法橋尚宏副理事長〉**

- ・ウェブサイトの維持・管理・改善を定期的に行っている。
- ・学術集会等の広報活動として、第 40 回学術集会の様子はスクリーンショットにおさめ、記録として本会ウェブサイトに掲載した。
- ・第 41 回学術集会の市民フォーラム(市民公開講座)の広報活動を行った。
- ・委員会の成果物を実践へトランスレーションを行う企画である「看護研究の玉手箱」において、



2020 年度表彰論文の追加掲載を行った。

- ・英語版ウェブサイトのリニューアルを本年 6 月に行った。
- ・新しい活動として、Facebook ページ（会員が交流できる会員フォーム）と YouTube チャンネル（デジタル広報の場）の開設を検討している。本会のマスコットキャラクターを整備し、デジタル広報を推進する。
- ・会員向けのニューズレター（電子メールで一斉配信）の創刊の準備をした。

#### **(11)看護倫理検討委員会〈手島恵理事〉**

看護学が関連する倫理的社会的事象に対する情報収集と学会としての対応を検討してきた。また、啓発活動も行っている。

#### **(12)利益相反委員会〈井上智子理事〉**

会員の研究活動の円滑な推進、サポートを目指している。年々委員会の役割が重要になってきており、それぞれの案件の個別性が高いため、連絡を取りながら COI を守っていききたい。具体的な活動は以下のとおりである。

- ・和文誌・英文誌投稿時の利益相反申告を引き続き実施
- ・セミナー等の講師の利益相反申告を実施
- ・学術活動の利益相反に関する本学会の細則等の見直しを行うことを計画
- ・日本看護科学学会における学術活動の利益相反マネジメント指針・細則との整合性を検討

#### **(13)研究倫理審査委員会〈井上智子理事〉**

所属を持たない会員や所属に倫理審査のシステムがない会員の方に向けての倫理審査を行っている。近年、申請数は少なくなっているが、このような機会が必要な方々のためにも充実した審査を進めている。活動は資料のとおりである。

#### **(14)災害看護支援委員会〈近藤暁子理事〉**

看護系学会と連携し情報収集や災害時の活動について検討している。

2 年間の活動としては、JANS 会員及び所属機関が災害支援に必要な準備を考えるような支援を検討するとの目標と活動計画を立案した。メンバーも一新し、8 月、9 月は主にフォーラムやシンポジウムなどに参加し情報収集をしている。主に新型コロナウイルスに関する内容が多く、看護師の会員も病院勤務でない方も、病院や保健所でコロナ患者対応やワクチン接種支援をされていることが多いと判断される。その支援の現状や所属機関からのサポートに関する調査「コロナ患者の対応を本務としていない JANS 会員（教員、大学院生など）の COVID-19 支援の現及び所属機関からのサポートに関する調査」を行い、学会として支援できる内容を検討する。

#### **(15)若手研究者助成準備委員会〈亀井智子理事〉**

内閣府から 2021 年 3 月 31 日に認定書が届き、2021 年 4 月から若手研究者への助成を開始した。初年度である今年度上期は 3 件の申請があり、2 件の海外留学の助成を決定した。下期の募集を 9 月 10 日から 10 月 31 日まで実施したが応募はなかった。2022 年度の海外留学の募集については 11 月 29 日から実施している。海外学術集会への出席については、2022 年 4 月からは随時募集をしていく予定である。

#### **(16)会則等委員会〈石橋みゆき理事〉**

本委員会は、定款や各種規定等の見直しを通し、公益社団法人として JANS が継続的かつ発展的な学会運営を行うため設置された委員会である。

本年は社員総会にて承認いただいた定款の改定を行った。具体的には「第 3 条(4)若手研究者の育成及び支援」の追加、第 3 条第 2 項の「前項各号の事業は、日本全国『及び海外』において行うもの

とする」とし、『及び海外』を追加し2021年3月31日施行した。

その他、定款や各種規則等について現状に合っているかの見直しなど継続して行っている。

#### (17)COVID-19 看護研究等対策委員会〈須釜淳子理事〉

会員に向けての調査結果を報告書（日本語版、英語版）としてまとめ、本年3月に学会ホームページで公開した。調査結果の一部はJJNSに採択され、9月8日にオンライン公開されている。会員からいただいたデータを様々な方と共有する取り組みとして、取得済みのデータの分析を行うプロジェクトを立ち上げ、指定課題・自由課題として応募した。

現状、アクセプトされた論文が3論文ある。

なお、第2回調査について8月26日から検討を開始し、今年度中に行いたいと考えている。また、第41回学術集会にて、若手研究者活動推進委員会と共催でシンポジウムを開催する。

#### (18)総務委員会（中村幸代理事）

- ・学会事務所の運営、会員の入会審査、会員管理を実施した。
- ・2021年の入会員数は総務委員会で報告した通りである。
- ・学会事務所の運営においては、COVID-19の感染対策として、事務所はもちろん、社員や会員に迷惑とならないよう注意しながら在宅勤務を運用した。

#### (19)他機関との連携活動

##### ①日本看護系学会協議会（JANA）（法橋尚宏副理事長）

- ・本年5月に社員学会との意見交會に出席した（オンライン開催）。
- ・本年6月に社員総会は書面議決書で出席した（2021年6月19日開催）。議案は資料のとおり。
- ・医療事故報告制度に関する支援として、一般社団法人日本医療安全調査機構からの依頼により本年1月以降8名の会員を個別調査部会員に推薦した。
- ・その他、JANAから得た情報を必要に応じ会員、役員にメール配信し共有した。

##### ② 看護系学会等社会保険連合（看保連）（大久保暢子理事）

看保連2021年度研究助成への応募について、4件の申請を審査し1件を承認した。

##### ③ 日本学術会議（法橋尚宏副理事長）

日本学術会議から提供のあったニュース・メールを役員に提供した。

##### ④ その他の機関（法橋尚宏副理事長）

対応すべき事案はなかった。

#### (20)選挙管理委員会〈中村幸代理事〉

理事候補者選挙を行い、本年5月21日(月)第1回理事会に理事候補者名簿を提出した。詳細は資料のとおり。

【質疑】なし

## VI. 審議事項

第1号議案：「2021年度収支補正予算書（一次案）」について、本件は6月の社員総会で承認されたが、書類の一部に誤記があり今回の審議事項に加えたものである。議案書（P.23-25）に基づき、堀内成子理事長から誤記の説明と審議がなされた。

修正箇所：前期繰越収支差額（誤）113,355,000→（正）113,336,000円。

第1号議案について議長より質問や意見が促されたが特になく、社員総数の過半数を超える承認で原案通り可決された。

第2号議案：「2021年度事業計画変更案と2次補正予算案の承認」について、議案書（P.26-29）に基づき中村幸代理事と石橋みゆき理事より説明と審議がなされた。

1. 第41回学術集会の開催方法の変更

名古屋国際会議場で開催を予定していたが、オンライン開催に変更した。

2. 2次補正予算案

議案書（P.27-29）に基づき、オンライン開催に変更したことによって減額になった説明と審議がなされた。

- ・「学術集会収入」が54,315,000円から40,354,000円に減額した。
- ・「学術集会費支出」はオンライン開催により54,194,000円から39,058,000円に減額した。減額の詳細については、※6～※11に理由を記載している。

第2号議案について議長より質問や意見が促されたが特になく、社員総数の過半数を超える承認で原案通り可決された。

第3号議案：「2022年度事業計画案の承認」について、議案書（P.30-34）に基づき各担当理事より説明と審議がなされた。

(1) 学術集会〈中村幸代理事〉

第42回、第43回の日本看護科学学会学術集会の準備について説明があった（会長と日時、場所）。

(2) 和文誌編集委員会〈宮下光令理事〉

- ・日本看護科学会誌第42巻を発行する。
- ・査読ガイドライン等の見直しを進める。
- ・投稿や掲載を増やし、編集委員や査読者の活動を支援する教育プログラムを交流集会で行う。

(3) 英文誌編集委員会〈江藤宏美理事〉

- ・Japan Journal of Nursing Science Vol. 19を発行する。
- ・JJNS セミナー2022を開催する。
- ・インパクトファクター向上を念頭に置いた査読基準を確立する。
- ・国内若手研究者の投稿数増加を図る。
- ・迅速査読を含む投稿数増加に対応する査読システムを整備する。

(4) 表彰論文選考委員会〈亀井智子理事〉

- ・表彰論文は学会誌に掲載されている論文から選考を行い公表する。
- ・学術集会における演題表彰制度の運用を進めていき、閉会式において演題表彰を実施する。
- ・外部機関からの表彰に該当する候補者の推薦を行う。

(5) 研究・学術推進委員会〈深堀浩樹理事〉

- ・会員の研究の支援活動
  - ① 大型研究費の獲得支援活動を進めていく。

② オンラインジャーナルクラブ実施の検討をする。

- ・ JANS セミナーの企画・開催・アーカイブ化
- ・ その他研究・学術推進に関する事業を実施する。

**(6) 看護ケア開発・標準化委員会〈須釜淳子理事〉**

- ・ 2019 年度採択のガイドラインの検討、発表を行う。
- ・ 2021 年度採択のガイドライン作成チームの推奨文決定を行い最終化の準備に着手する。
- ・ 日本薬理学会との共同学術企画の成果として、レビュー論文を複数投稿する。

**(7) 若手研究者活動推進委員会〈仲上豪二郎理事〉**

- ・ 真田弘美前理事長が打ち出された若手研究者支援の方針を基本ベースとして継続していきたいと考えており、若手同士のネットワーク構築とエリア・コーディネーターとの連携強化を図る。
- ・ 他の委員会との協働で様々な企画を提案し、若手研究者の活動を支援していく。
- ・ 日本心理学会との連携強化のための活動を推進する。
- ・ Journal club の企画に参画する。

**(8) 国際活動推進委員会〈池田真理理事〉**

- ・ 国際学会での研究発表ができるよう増加施策としてセミナー等の企画を行う活動を進める。
- ・ 国際的研究活動への参加支援を若手研究者助成選考委員会と協働で後押しをしていく。
- ・ 世界看護科学学会（WANS）などの海外学術団体と交流するための活動を行う。
- ・ 「異文化看護データベース」の更新を引き続き実施していく。

**(9) 看護学学術用語検討委員会〈大久保暢子理事〉**

- ・ 構築した電子システムに既存の 100 の看護学学術用語を掲載し、実装状況をアクセス数等で評価する。
- ・ 新しい看護学学術用語を追加するための募集等をホームページでお知らせし、審査を行う電子システムへの追加を行う。
- ・ 第 42 回学術集会にて交流セッションを開催し、看護学学術用語の普及と用語追加の募集などの意見交換をする。

**(10) 社会貢献委員会〈大久保暢子理事〉**

- ・ 第 42 回学術集会にて「市民公開講座」を開催する。
- ・ 第 42 回学術集会と協働で、次世代育成事業として新企画を検討・開催し評価を行う。
- ・ 市民公開講座のアーカイブ化を行い、会員へ無料で情報提供を継続して行う。
- ・ Journal club の企画は研究・学術推進委員会とともに継続して活動する。

**(11) 広報委員会〈法橋尚宏副理事長〉**

- ・ 学会のホームページ（日本語・英語）の更新・管理等を行う。
- ・ WANS と学術集会に関する広報活動を行う。
- ・ 研究を実践へトランスレーションするための広報である「看護研究の玉手箱」を更新する。
- ・ ニュースレターを創刊する。
- ・ 学会の Facebook ページと YouTube チャンネルを開設し、デジタル広報の場として活用する
- ・ 学会のマスコットキャラクターを制作し、広報活動に活用する。

**(12) 看護倫理検討委員会〈手島恵理事〉**

- ・ 看護学が関連する倫理的な社会事象に対する情報収集と対応案を検討していく。
- ・ 研究倫理の遵守及び倫理的な研究活動について啓発活動を行う企画を、第 42 回学術集会の交流集会で行う。

**(13) 利益相反委員会〈井上智子理事〉**

- ・役員、委員会活動、投稿者、学術集会における発表者を対象として引き続き COI を実施する。
- ・前期委員会から引き継いでいる利益相反マネジメント指針・細則・COI 申告書の変更を完成させる。

**(14) 研究倫理審査委員会〈井上智子理事〉**

申請があり次第、倫理審査（メール審査、委員会招集審査のいずれか）を行う。併せて研究倫理審査に関わる事項の検討をする。

**(15) 災害看護支援委員会〈近藤暁子理事〉**

- ・災害に関するセミナー、シンポジウム、講演会などに参加して、必要な災害看護支援や研究課題に関する情報収集を行う。
- ・第 42 回学術集会において交流集会を実施する。
- ・JANS 会員の COVID-19 支援状況および所属機関からのサポート、必要としている支援に関する調査をメールで行い、論文としてまとめる。

**(16) 若手研究者助成選考委員会〈亀井智子理事〉**

- ・海外学術集会への出席については、2022 年 4 月 1 日から随時募集を受け付ける。
- ・海外留学については、2021 年 11 月 29 日から 12 月 28 日までを申請期間として募集活動を行う。

**(17) 会則等委員会〈石橋みゆき理事〉**

- ・既存の申し合わせ事項の会則との整合性の確認を進めていく。
- ・新事業に関わる定款の必要性を検討する。

**(18) COVID-19 看護研究等対策委員会〈須釜淳子理事〉**

- ・「新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会会員の研究活動への影響」第 2 回調査を実施する。
- ・調査結果から after-with コロナ時代の看護研究促進に向けた方針を理事会に提言していく。

**(19) 総務委員会〈中村幸代理事〉**

- ・入会審査を行う。
- ・会員管理データシステムの効率化を図る。
- ・事務所職員のマニュアルの見直しを促して、事務処理の効率化と合理化を検討し、会員サポートの充実を図る。
- ・委員会と事務所の連携強化を行う。

**(20) 選挙管理委員会〈中村幸代理事〉**

- ・2023 年選出代議員選挙に向けて準備をしていく。

**(21) 他機関との連携〈法橋尚宏副理事長／大久保暢子理事〉**

日本看護系学会協議会、日本学術会議、看護系学会等社会保険連合と連携していく。

第 3 号議案について議長より質問や意見が促されたが、特にはなく過半数の承認で原案通り可決された。

第 4 号議案「2022 年度予算（案）の承認」について、議案書(P.36-40)に基づき石橋みゆき理事より説明がなされ、審議が行われた。

正式な 2022 年度収支予算（案）と従来型の事業活動収支予算書（案）を統一させるような表記にしている。収支予算書（案）は公益目的事業、収益事業等、法人会計の 3 つに分けて計算をすることになっている。公益目的事業の下にある学術振興事業、学会誌事業、学術集会事業、市民講座等事業は、従来型の事業活動収支予算書（案）の公益目的事業と並び方を整合させている。

収支予算書（案）から説明する。正会員受取会費 101,200,000 円を公益目的事業と収益事業に半分ずつ振り分けている。賛助会員受取会費 250,000 円は公益目的事業に計上した。セミナー収益 3,120,000 円は学術振興事業に、学会誌事業は 5,007,000 円、学術集会事業は 46,000,000 円、共通に 50,850,000 円の会費収入を見込み、公益目的事業全体として 104,977,000 円を見込んでいる。収益事業の広告販売事業は 9,911,000 円で、経常収益計は 166,239,000 円になっている。一方、支出の当期経常増減額はマイナスになっているが、公益社団法人の性格上、決算書の段階で公益目的事業費が遊休財産を越えなければ問題ない。

続いて、従来型の事業活動収支予算書（案）について説明をする。（補足※1～25 を参照）

事業活動収入合計は 166,239,000 円、事業活動支出合計 179,073,000 円となり、事業活動収支差額 △12,834,000 円でマイナスになっているが、遊休財産消化のためにこの程度であれば可能であろうと見込みこの予算案になっている。

**第 4 号議案**について議長より質問や意見が促されたが特になく、過半数の承認で原案通り可決された。

**第 5 号議案** 堀内成子理事長より第 44 回日本看護科学学会学術集会会長は熊本大学 前田ひとみ先生との提案がなされ、会場より承認を得た。

承認後、前田ひとみ先生より挨拶があった。

## **VII. 今期（2021 年度から 2022 年度）の活動方針について**

### **〈堀内成子理事長〉**

日本看護科学学会も新たな体制となり、今期理事会（2021 年度から 2022 年度）の活動方針として、前期の真田理事長が推進していた若手研究者活性化を引継ぎつつ、新たな事業を展開し、看護学学会初の会員 1 万人超の学会として充実を図っていききたい。

#### **1. 活動方針**

1)若手研究者の育成に関しては、研究成果の公表（和文誌・英文誌）の場にしていく。特に迅速審査についてはルールに則って多くの学位論文が公表されることを願う。

2)研究能力向上については、大型研究費の獲得、若手研究者支援、ガイドラインの作成に若手研究者を投入することを進めていく。

3)国際化の促進は、特に今年度から始めた若手研究者の国際学会発表に関する助成と海外での研究活動を目的とした留学への助成を促進することで、看護学研究者の国際化を図っていききたい。

本事業に関連する委員会は資料のとおりである。

#### **2. 研究活動の推進**

1)現在、理事会で検討している新たな研究助成制度を創設したい。大学院生が応募できるタイプと会員の研究活動を支援する 2 つの助成制度を創設し、挑戦的課題と指定課題として研究の支援を行

う予定。詳細は来年6月の社員総会で報告する。JANSではここ数年財政状況も良く、遊休財産を有効に使うことに還元した活動にもなる。

2)社会貢献の推進は、若い世代がこれから看護を目指していきたいと思える活動を行っていく。

3)研究倫理体制の充実とCOVID-19関連研究の推進は引き続き実施する。

4)他学問分野の学会との連携は、今後ますます盛んにしていきたいと考えている。

本事業に関連する委員会は資料のとおりである。

### 3. 将来を見据えた法人運営

会員1万人の学会としての法人運営を改めて検討していきたい。

1)会則の整備を図る。

2)公益法人としての財産の活用を検討していく。具体的には新たな研究助成制度を設けること、会員のメリットをいかに高めるかについて理事会で検討している。

3)事務局環境の改善による事務処理の効率化は、会計の事務作業の効率化と見直し、監査体制、事務所環境への対応などを考えている。

本事業に関連する委員会は資料のとおりである。

今期は上記活動方針により、理事会を運営していきたいと考えている。

なお、巻末に各委員会から活動方針に関する想定したゴールとTO DOリストがあるので、参照いただければ幸いである。社員の皆様のご協力とご理解をあらためてお願いしたい。

## VIII.閉会

以上をもって、2021年12月社員総会が閉会した。委任状を含め出席者数は231名であったことが法橋副理事長より報告された。

2022年 2月 10日

議 長                      堀内 成子                      ㊟

議事録署名人              定方 美恵子                      ㊟

議事録署名人              白水 真理子                      ㊟



# 公益社団法人日本看護科学学会 2021年12月社員総会 議案書

日 時 2021年12月3日(金) 16:00~18:30(予定)

場 所 Web開催 公益社団法人日本看護科学学会事務所ほか

## I. 開 会

## II. 理事長挨拶

## III. 第41回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

## IV. 議長指名および議事録署名人の承認

## V. 総務報告・理事会報告・委員会活動報告

## VI. 審議事項

第1号議案 2021年度補正予算(1次・案)の承認

第2号議案 2021年度事業計画変更(案)と補正予算(2次・案)の承認

第3号議案 2022年度事業計画(案)の承認

第4号議案 2022年度予算(案)の承認

第5号議案 第44回日本看護科学学会学術集会会長の承認

## VII. 今期理事会の方針について

## VIII. 閉 会

## 公益社団法人日本看護科学学会 役員

理事長 堀内 成子

副理事長 法橋 尚宏

理事：池田 真理、石橋 みゆき、井上 智子、江藤 宏美、大久保 暢子、亀井 智子、  
近藤 暁子、須釜 淳子、手島 恵、仲上 豪二郎、中村 幸代、深堀 浩樹、  
宮下 光令

監事：南 裕子、村嶋 幸代

## 名誉会員

阿曾 洋子、稲岡 文昭、氏家 幸子、薄井 坦子、金川 克子、川嶋 みどり、  
川村 佐和子、小島 操子、小玉 香津子、近藤 潤子、新道 幸恵、中島 紀恵子、  
中村 恵子、林 滋子、樋口 康子、松野 かほる、矢野 正子、山崎 智子

## 賛助会員

(株)医学書院、(株)南江堂、(株)日本看護協会出版会、(株)へるす出版

(以上、五十音順・2021年10月1日現在)

## 日本看護科学学会学術集会会長

第41回学術集会会長      第42回学術集会会長      第43回学術集会会長

百瀬 由美子

森山 美知子

田中 マキ子

## 社員

### 【北海道】

大日向 輝美  
川村 三希子  
菊地 ひろみ  
今野 美紀  
澤田 いずみ  
城丸 瑞恵  
照井 レナ  
長谷川 真澄  
樋之津 淳子  
平 典子  
松浦 和代  
矢野 理香  
吉田 礼維子

### 【東北】

朝倉 京子  
安藤 広子  
石井 範子  
一戸 とも子  
遠藤 恵子  
大森 純子  
尾崎 章子  
角濱 春美  
桑名 佳代子  
小林 淳子  
武田 淳子  
武田 利明  
鄭 佳紅  
野戸 結花  
原 玲子  
藤田 あけみ  
古瀬 みどり  
宮下 光令  
吉田 俊子

### 【関東A】

飯田 苗恵  
市村 久美子  
牛久保美津子  
内田 陽子  
岡 美智代  
金子 昌子  
加納 尚美  
神田 清子  
近藤 浩子  
齋藤 基  
佐藤 由美  
鈴木 幸子  
高井 ゆかり

常盤 洋子  
巴山 玉蓮  
春山 早苗  
廣瀬 規代美  
二渡 玉江  
古谷 佳由理  
松田 安弘  
水野 道代  
村井 文江  
村上 礼子  
安酸 史子  
横山 京子  
六角 僚子

### 【関東B】

荒木田美香子  
飯村 直子  
池崎 澄江  
石橋 みゆき  
上野 まり  
岡田 忍  
数間 恵子  
勝山 貴美子  
金井 PAK 雅子  
黒田 裕子  
近藤 まゆみ  
齋藤 やよい  
佐藤 禮子  
茂野 香おる  
島袋 香子  
白水 真理子  
高橋 眞理  
田高 悦子  
手島 恵  
永田 智子  
中山 登志子  
深堀 浩樹  
正木 治恵  
眞嶋 朋子  
増島 麻里子  
松下 年子  
水戸 優子  
村上 明美  
村中 陽子  
森 明子  
森 恵美  
湯浅 美千代  
吉田 澄恵  
和住 淑子

渡邊 眞理

### 【東京A】

五十嵐 歩  
大江 真琴  
大久保 暢子  
大田 えりか  
柏木 聖代  
片岡 弥恵子  
上別府 圭子  
亀井 智子  
戈木クレイグ  
ヒル 滋子  
眞田 弘美  
習田 明裕  
武村 雪絵  
田中 眞琴  
仲上 豪二朗  
中山 和弘  
成瀬 昂  
春名 めぐみ  
堀内 成子  
前田 樹海  
宮本 有紀  
吉田 千文

### 【東京B】

阿部 幸恵  
飯野 京子  
池田 眞理  
井上 智子  
井村 眞澄  
江本 リナ  
大久保 功子  
太田 喜久子  
岡谷 恵子  
柏木 公一  
香春 知永  
亀岡 智美  
川原 由佳里  
北 素子  
草間 朋子  
小松 浩子  
佐々木 幾美  
佐藤 紀子  
田中 美恵子  
筒井 眞優美  
長江 弘子  
本庄 恵子  
守田 美奈子

山内 豊明  
吉田 みつ子

綿貫 成明

### 【甲信越】

會田 信子  
浅川 和美  
有森 直子  
遠藤 みどり  
定方 美恵子  
征矢野あや子  
中込 さと子  
平澤 則子  
安田 貴恵子  
八尋 道子

### 【北陸】

石垣 和子  
大乗 麻由美  
加藤 眞由美  
北岡 和代  
須釜 淳子  
長谷川 智子  
平松 知子  
松井 優子  
丸岡 直子

### 【東海】

明石 恵子  
浅野 みどり  
足立 はるゑ  
足立 久子  
安藤 詳子  
池松 裕子  
市江 和子  
大石 ふみ子  
大島 弓子  
太田 勝正  
大西 文子  
岡田 由香  
片岡 純  
片山 はるみ  
門間 晶子  
篠崎 恵美子  
島内 節  
白尾 久美子  
白鳥 さつき  
杉浦 太一  
鈴木 みずえ  
多喜田 恵子  
奈良間 美保

野口 眞弓  
深田 順子  
藤井 徹也  
古田 加代子  
本田 育美  
操 華子  
箕浦 哲嗣  
三吉 友美子  
柳澤 理子  
山田 紀代美  
山田 聡子  
渡邊 順子

### 【近畿A】

赤澤 千春  
秋元 典子  
東 ますみ  
池田 清子  
石井 豊恵  
井上 智子  
ウィリアムソ  
ン 彰子

内布 敦子  
江川 幸二  
江川 隆子  
大野 かおり  
大野 ゆう子  
片田 範子  
勝原 裕美子  
工藤 美子  
久米 弥寿子  
グライナー 智  
恵子  
黒田 裕子  
洪 愛子  
河野 あゆみ  
近藤 麻理  
清水 安子  
鈴木 久美  
瀬戸 奈津子  
高橋 弘枝  
玉木 敦子  
都筑 千景  
泊 祐子  
檜木野 裕美  
二宮 啓子  
簀持 知恵子  
林 千冬  
法橋 尚宏

前川 幸子  
牧本 清子  
松田 宣子  
丸 光恵

### 【近畿B】

吾妻 知美  
伊波 早苗  
岩脇 陽子  
遠藤 俊子  
岡山 寧子  
桂 敏樹  
河原 宣子  
竹之内 沙弥香  
内藤 知佐子  
西垣 昌和  
西田 直子  
藤本 幸三  
星野 明子  
松月 みどり  
吉岡 さおり  
若村 智子

### 【中国・四国】

吾郷 美奈恵  
畦地 博子  
井伊 久美子  
伊東 美佐江  
内田 宏美  
瓜生 浩子  
大川 宣容  
岡田 淳子  
雄西 智恵美  
折山 早苗  
掛田 崇寛  
片山 陽子  
岸田 佐智  
久保田 聡美  
小山 眞理子  
陶山 啓子  
祖父江 育子  
竹崎 久美子  
長戸 和子  
中西 純子  
中山 洋子  
野嶋 佐由美  
野本 百合子  
原 祥子  
百田 武司  
深田 美香

藤田 佐和	<b>【九州・沖縄】</b>	影山 隆之	谷口 初美	前田 ひとみ
南 裕子	飯野 英親	神里 みどり	田村 やよひ	益守 かづき
宮下 美香	宇佐美 しおり	金城 芳秀	長家 智子	松浦 賢長
森下 安子	宇都 由美子	国府 浩子	永松 有紀	三橋 睦子
森本 美智子	江藤 宏美	斉藤 ひさ子	野間口 千香穂	宮園 真美
森山 美知子	大池 美也子	佐藤 香代	橋口 暢子	宮林 郁子
薬師神 裕子	岡崎 美智子	正野 逸子	日高 艶子	村嶋 幸代
山田 覚	尾形 由起子	竹熊 千晶	藤田 君支	村田 節子

以上、312名  
地区別  
五十音順

(2021年10月1日現在)

# 総務報告

## 1. 会員推移 (2021年4月1日～2021年11月4日)

### 1) 正会員数増減

#### ①2021年4月1日正会員数

9311名 = 2021年3月31日正会員数9924名 - 2021年度資格喪失者613名

(自主退会376名、会費未納237名)

#### ②2021年度の入会者

691名 = 新規入会625名 + 再入会66名

#### ③2021年度の死亡喪失者

なし

#### ④会員区分の変更

1名

正会員から名誉会員 (下記3) の承認者)

### 2) 賛助会員増減

なし

### 3) 名誉会員

承認

1名

### 4) 2021年11月4日現在 会員数

正会員 10,001 ※4月1日正会員数+入・再入会数-会員区分変更数

名誉会員 18

賛助会員 4

会員総数 10,023

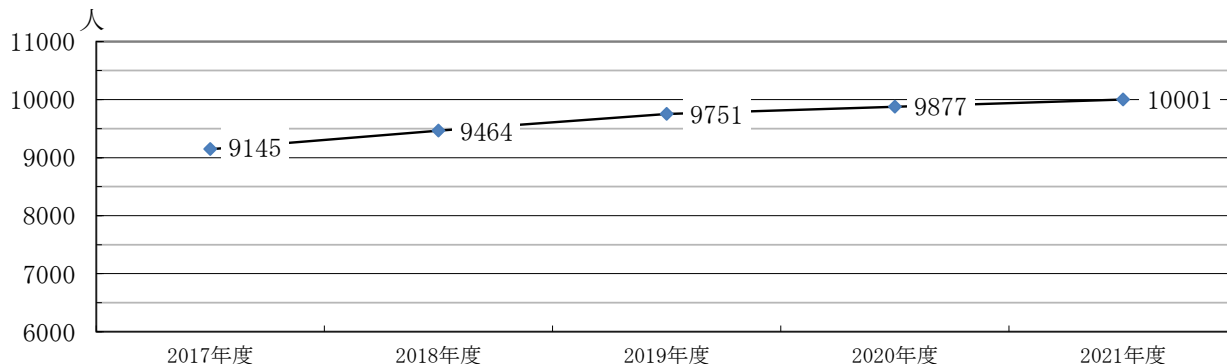
## 2. 地区別正会員数 (2021年11月4日 会員数10,001)

地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	
北海道 396	北海道	396	北陸	富山	94	九州・沖縄	福岡	469	
				石川	175		佐賀	57	
東北 582	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島	133 81 182 70 70 46	東海	福井	69		長崎	80	
				静岡	195		熊本	77	
				愛知	557		大分	46	
				岐阜	212		宮崎	66	
				三重	156		鹿児島	50	
				近畿 A	634		沖縄	91	
関東 A 827	茨城 栃木 群馬 埼玉	142 137 183 365	近畿 B	大阪	570		宛先不明者		37
				兵庫	570		合計	10,001	
				滋賀	114				
				京都	267				
関東 B 1155	千葉 神奈川	539 616	中国・四国	奈良	102				
				和歌山	52				
東京 A 706	※1	706	1013	鳥取	44				
				島根	58				
東京 B 816	※2	816		岡山	186				
				広島	304				
				山口	49				
				徳島	61				
				香川	66				
				愛媛	108				
甲信越 336	新潟 長野 山梨	128 131 77		高知	137				

※1 千代田区、中央区、港区、台東区、文京区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、墨田区、江戸川区、江東区、品川区、大田区、島しょ、海外

※2 渋谷区、目黒区、世田谷区、新宿区、中野区、杉並区、豊島区、板橋区、練馬区、多摩地域

## 3. 正会員数の推移 (年度別)



# 公益社団法人日本看護科学学会 理事会報告

(2021年4月1日～12月3日)

## 2021年度第1回理事会

日時：2021年5月21日（金） 13：00～15：40

場所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室）ほか

出席者：理事14名、監事2名、第41回学術集会会長、選挙管理委員長 ※全出席者 Web 参加

### 〈審議事項〉

1. 第41回日本看護科学学会学術集会（JANS41）の準備状況
2. 選挙報告
3. 総務会からの提案
4. 2021年6月定時社員総会の議案の承認と進行分担表の確認
5. 各委員会からの報告および審議事項
  - 1) 和文誌編集委員会
  - 2) 英文誌編集委員会
  - 3) 表彰論文選考委員会
  - 4) 研究・学術推進委員会
  - 5) 看護ケア開発・標準化委員会
  - 6) 若手研究者活動推進委員会
  - 7) 国際活動推進委員会
  - 8) 看護学学術用語検討委員会
  - 9) 社会貢献委員会
  - 10) 広報委員会
  - 11) 看護倫理検討委員会
  - 12) 利益相反委員会
  - 13) 研究倫理審査委員会
  - 14) 災害看護支援委員会
  - 15) 若手研究者助成選考委員会
  - 16) 会則等委員会
  - 17) COVID-19 看護研究等対策委員会
  - 18) 総務委員会
  - 19) 他団体との連携について
    - ① 日本看護系学会協議会

② 看護系学会等社会保険連合（看保連）

③ 日本学術会議

④ その他の団体

6. 入会希望者の承認

7. その他

### 2021 年度第 2 回理事会

日 時：2021 年 6 月 13 日（日） 10：00～10：50

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）ほか

出席者：理事 15 名、監事 2 名 ※全出席者 Web 参加

#### 〈審議事項〉

1. 2021 年 6 月定例社員総会の議案と進行分担表の確認
2. 委員会からの報告および審議事項 ※報告または審議のある委員会のみ
3. 入会希望者の承認
4. その他

### 2021 年度臨時理事会

日 時：2021 年 6 月 13 日（日） 13：30～14：00

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）ほか

出席者：理事 15 名、監事 2 名 ※全出席者 Web 参加

#### 〈審議事項〉

1. 理事長（代表理事）、副理事長の承認

### 2021 年度臨時理事会

日 時：2021 年 7 月 16 日（金） 14：00～16：00

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 14 名、監事 2 名、第 42 回学術集会会長 ※全出席者 Web 参加

#### 〈審議事項〉

1. 第 42 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 今期理事会方針について
3. 会務分掌案および委員の承認
4. 2021 年度 各委員会予算・執行状況
5. 委員会からの報告および審議事項 ※報告または審議のある委員会のみ
6. JANS41 の理事会企画に関する確認



7. 今期理事会の今後の予定について
8. 入会希望者の承認
9. その他

### 2021 年度第 3 回理事会

日 時：2021 年 9 月 6 日（月） 13：00～15：00

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）ほか

出席者：理事 14 名、監事 1 名、第 41 回学術集会会長、第 42 回学術集会会長

※全出席者 Web 参加

#### 〈審議事項〉

1. 第 41 回日本看護科学学会学術集会（JANS41）の準備状況
2. 第 42 回日本看護科学学会学術集会（JANS42）の準備状況
3. 総務会からの提案・報告
4. 会計報告（各委員会予算執行状況）
5. 各委員会からの報告および審議事項
6. 入会希望者の承認

### 2021 年度第 4 回理事会

日 時：2021 年 10 月 25 日（月） 13：00～15：00（予定）

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）ほか

出席者：理事 14 名、監事 1 名、第 41 回学術集会会長、第 42 回学術集会会長 ※全出席者 Web 参加

#### 〈審議事項〉

1. 第 41 回日本看護科学学会学術集会（JANS41）の準備状況
2. 第 42 回日本看護科学学会学術集会（JANS42）の準備状況
3. 総務会からの提案・報告
4. 12 月社員総会の議案の承認、進行分担表の確認
5. 第 41 回学会総会の議案の承認、進行分担表の確認
6. 会計報告（2021 年度委員会活動費執行状況）
7. 各委員会からの報告および審議事項
8. 入会希望者の承認

### 2021 年度第 5 回理事会

日 時：2021 年 12 月 3 日（金） 14：00～16：00（予定）

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）ほか

出席者：理事 15 名、監事 2 名（予定）※全出席者 Web 参加

〈審議事項〉

1. 総務会からの提案について
2. 2021 年 12 月社員総会の資料と進行分担表の確認
3. 第 41 回学会総会の資料と進行分担表の確認
4. 各委員会からの審議事項
5. 入会希望者の承認

公益社団法人日本看護科学学会 2021-2022年度委員会名簿

※所属機関名は2021年10月30日現在の会員登録データに基づいています

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
和文誌編集	委員長/編集長 編集長 編集長	宮下光令	東北大学大学院
		河野あゆみ	大阪市立大学大学院 看護学研究科 在宅看護学領域
		春名めぐみ	東京大学大学院
		會田信子	信州大学
		宇佐美しおり	四天王寺大学
		片山はるみ	浜松医科大学
		勝山貴美子	横浜国立大学
		瀬戸奈津子	関西医科大学
		征矢野あや子	京都府立医科大学
		田中真琴	東京医科歯科大学
		玉木敦子	東神戸女子大学
		成瀬昂	東京大学
		春山早苗	自治医科大学
		松井優子	公立小松大学
		宮本有紀	東京大学
		矢野理香子	北海道大学
		吉田俊亮	聖路加国際大学
		落合亮太	横浜市立大学
		飯岡由紀子	埼玉県立大学
		小野若菜子	聖路加国際大学
梶井文幸子	東京慈恵会医科大学		
キ夕藤伊織	国立成育医療研究センター		
佐藤若麻輝	東京大学		
新細田泰子	名古屋大学		
細岡友紀子	大阪府立大学		
森本悦子	武庫川女子大学		
吉田美香子	東北大学		
英文誌編集	委員長 委員長 理事 理事	WILLIAM L. HOLZEMER	Rutgers, The State University of New Jersey, School of Nursing
		江藤宏美	長崎大学
		堀内成子	聖路加国際大学
		近藤暁子	東京医科歯科大学
		朝倉京子	東北大学
		池松裕子	名古屋大学
		北岡和代	公立小松大学
		グライナー智恵子	神戸大学
		野口真弓	日本赤十字豊田看護大学
		藤田君支子	九州大学
		操華子	静岡県立大学
		池田理恵子	岡山県立大学
		石原逸子	神戸市看護大学
		梅田麻希	兵庫県立大学
		加藤憲司	神戸市看護大学
		グレッグ美鈴代	神戸市看護大学
		コリー紀代	北海道大学
		齋藤あ奈	新潟大学
		佐藤由美	千葉大学
		千葉理恵	横浜市立大学
千野木ルミ	神戸大学		
角田秋鈴	東京医科歯科大学		
中村美鈴	東京有明医療大学		
深井喜代子	東京慈恵会医科大学		
丸山昭子	東京慈恵会医科大学		
山崎あけみ	大阪府立大学		
吉永尚紀	宮崎大学		
朝澤恭子	東京医療保健大学		

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名		
表彰論文選考	委員長 理事 理事 計	亀井智子	聖路加国際大学大学院		
		宮下光令	東北大学大学院		
		江藤宏美	長崎大学大学院		
		赤澤千春	大阪医科大学薬科大		
		荒木美香	川崎市立看護短期大学		
		有森直子	新潟大学医学部保健学		
		牛久保美津子	群馬大学大学院		
		真田弘美	東京大学大学院		
		野間千香	宮崎大学大学院		
		藤田君支子	九州大学大学院		
		増島麻里子	千葉大学大学院		
		綿貫成麻希	国立看護大学校		
		梅佐由美	兵庫県立国際大学		
研究・学術推進	委員長 理事 計	長谷川真澄	札幌医科大学		
		堀浩樹	慶應義塾大学		
		久保暢子	聖路加国際大学		
		大江真琴	金沢看護大学		
		大木村雪絵	国立看護大学		
		武村智子	東慶義塾大		
		小池玉巨子	北里大学		
		小酒井郁子	千葉大学		
		新井福洋	広島大学		
		滝小紀	国立国際医療研究センター		
		福井十嵐	東京医科歯科大学		
		須釜淳子	藤田医科大学大学院		
		石橋みゆき	千葉大学大学院		
若手研究者活動推進	委員長 理事 計	大佐藤佳勝	山形県立看護大学		
		仲上豪二	東京大学大学院		
		須釜淳真	藤田医科大学大学院		
		池田野薫	東京大学大学院		
		天澤佳奈美	聖隷クリストフ大学		
		菅野恵子	広島大学		
		新福洋子	広島大学		
		友横慎一郎	国立国際医療研究センター		
		吉永尚紀	東京大学		
		麦田裕子	宮崎大学		
		国際活動推進	委員長 計	池田真理子	東京女子医科大
				片田範子	関西医科大学
				金井PAK雅子	東関学院大学
高井ゆかり	群馬県立県民健康科学大				
竹之内沙弥香	京都大学				
操華子	静岡県立大				
柳澤理子	愛知県立大				
グレッグ美鈴	神戸市看護大				
中村美鈴	東京慈恵会医科大				
成山和子	大阪大学				
山本有紀	東京大学				

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
看護学学術用語検討	委員長	大久保暢子 大田えり 大藤田佐和子 大本庄恵子 大村佳代子 大住谷ゆかり 田中晴一 横田慎令 蜂ヶ崎	聖路加国際大学院 聖路加国際大学 聖高知県立大学 日本赤十字看護大学 日本赤十字看護大学 日本赤十字看護大学 日本赤十字看護大学 日本赤十字看護大学 日本赤十字看護大学 日本赤十字看護大学
	会計	大久保暢子 有森直春 角濱優子 水戸原良子 大木下真吾 高橋恵子 寺本千恵 松石雄二 吉田みつ	聖路加国際大学院 新潟青森県立保健福祉大学 神奈川県立保健福祉大学 日本赤十字看護大学 聖路加国際大学院 聖路加国際看護大学 日本赤十字看護大学
社会貢献	委員長	大久保暢子 有森直春 角濱優子 水戸原良子 大木下真吾 高橋恵子 寺本千恵 松石雄二 吉田みつ	聖路加国際大学院 新潟青森県立保健福祉大学 神奈川県立保健福祉大学 日本赤十字看護大学 聖路加国際大学院 聖路加国際看護大学 日本赤十字看護大学
	会計	大久保暢子 有森直春 角濱優子 水戸原良子 大木下真吾 高橋恵子 寺本千恵 松石雄二 吉田みつ	聖路加国際大学院 新潟青森県立保健福祉大学 神奈川県立保健福祉大学 日本赤十字看護大学 聖路加国際大学院 聖路加国際看護大学 日本赤十字看護大学
広報	委員長	法橋尚宏 岡田優子 水戸下美香 宮田マキ子 田中マキ子 吉副島堯史	神戸大学 神奈川県立保健福祉大学 神奈川県立保健福祉大学 山梨県立保健福祉大学 山梨県立保健福祉大学 山梨県立保健福祉大学 山梨県立保健福祉大学
	会計	法橋尚宏 岡田優子 水戸下美香 宮田マキ子 田中マキ子 吉副島堯史	神戸大学 神奈川県立保健福祉大学 神奈川県立保健福祉大学 山梨県立保健福祉大学 山梨県立保健福祉大学 山梨県立保健福祉大学 山梨県立保健福祉大学
看護倫理検討	委員長	手島直恵子 有森淳子 岡田さつき 白鳥文江 村井若麻理 田中真木	千代田大学 新潟県立保健福祉大学 新潟県立保健福祉大学 新潟県立保健福祉大学 新潟県立保健福祉大学 新潟県立保健福祉大学 新潟県立保健福祉大学
	会計	手島直恵子 有森淳子 岡田さつき 白鳥文江 村井若麻理 田中真木	千代田大学 新潟県立保健福祉大学 新潟県立保健福祉大学 新潟県立保健福祉大学 新潟県立保健福祉大学 新潟県立保健福祉大学 新潟県立保健福祉大学
利益相反	委員長	井上智子 石橋みゆき 會田信子 鄭森下純子 友納理緒	国立看護大学校 国立看護大学校 国立看護大学校 国立看護大学校 国立看護大学校 国立看護大学校 国立看護大学校
	外部委員	井上智子 石橋みゆき 會田信子 鄭森下純子 友納理緒	国立看護大学校 国立看護大学校 国立看護大学校 国立看護大学校 国立看護大学校 国立看護大学校 国立看護大学校
研究倫理審査	委員長	井上智子 茂野香おる 吾郷美奈恵 隈本邦彦 戸塚実緒	国立看護大学校 国立看護大学校 国立看護大学校 国立看護大学校 国立看護大学校 国立看護大学校 国立看護大学校
	外部委員	井上智子 茂野香おる 吾郷美奈恵 隈本邦彦 戸塚実緒	国立看護大学校 国立看護大学校 国立看護大学校 国立看護大学校 国立看護大学校 国立看護大学校 国立看護大学校
災害看護支援	委員長	近藤暁子 河原宣子 牛久保美津子 近藤麻理子 神今陽子	東京医科大学 東京医科大学 東京医科大学 東京医科大学 東京医科大学 東京医科大学 東京医科大学
	会計	近藤暁子 河原宣子 牛久保美津子 近藤麻理子 神今陽子	東京医科大学 東京医科大学 東京医科大学 東京医科大学 東京医科大学 東京医科大学 東京医科大学
若手研究者助成選考	委員長	亀井智子 池田真理美 江藤宏美 須釜二朗 仲上豪樹 深堀浩光 宮下光美 グレッグ美彦	聖路加国際大学院 聖路加国際大学院 聖路加国際大学院 聖路加国際大学院 聖路加国際大学院 聖路加国際大学院 聖路加国際大学院 聖路加国際大学院
	外部委員	亀井智子 池田真理美 江藤宏美 須釜二朗 仲上豪樹 深堀浩光 宮下光美 グレッグ美彦	聖路加国際大学院 聖路加国際大学院 聖路加国際大学院 聖路加国際大学院 聖路加国際大学院 聖路加国際大学院 聖路加国際大学院 聖路加国際大学院

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
会則等	委員長 理事 理事 理事 計	石橋みゆき 井上智子 手宮下光恵 宮大下江真琴	千国 葉立 葉北 大看 大沢 学護 学学 学学 学学 学学
COVID-19 看護研究等対策	委員長 理事 理事	須釜淳子 池田上豪二 仲深堀浩洋 新田福マキ 田中マ慎 横村永尚 吉田幸真 中池田智 永田	藤田 東京 東京 東慶 広山 東宮 横東 慶慶
総務	委員長 理事	中池永	浜京 京應 大義 市立 学学 学学 学学 学学 学学
選挙管理	委員長	2022年5月～	

# 委員会活動報告

(2021年1月～12月)

## (1) 和文誌編集委員会（宮下光令理事）

学会誌（日本看護学会誌）の発行、投稿の促進、投稿原稿の受付および査読の依頼、採否の決定などを実施。

### ① 日本看護科学会誌（電子ジャーナル）の発刊

- ・日本看護科学会誌 41 巻をオンラインで発刊した。
- ・2021 年 1 月以降の投稿論文数：213 論文（2021 年 10 月 13 日現在）
- ・論文公開時には会員向け一斉メールを配信することで、掲載の周知を行った。
- ・表彰論文選考に参画した。

### ② 更なる投稿規程等の見直しに関する検討

- ・2021 年 3 月に修士論文・博士論文を含んだ更なる投稿数の増加、査読に要する日数の短縮化などを目標とした投稿規程などの全般的な見直しに着手した。

### ③ 第 41 回学術集会にて交流集会「『査読者や編集委員の視点からみた JANS 和文誌に論文を載せるコツ』をこっそり教えます」を企画

## (2) 英文誌編集委員会（江藤宏美理事）

日本から世界へ学術情報を発信するため 2004 年から英文誌（Japan Journal of Nursing Science「JJNS」）の発行を開始、2014 年からは online-only journal として、年 4 回の発行を実施。また JJNS セミナーも開催。

### ① Japan Journal of Nursing Science の発行

- ・Japan Journal of Nursing Science Vol.18 をオンラインで発刊した。
- ・2021 年 1 月以降の投稿論文数は、576 編であった（2021 年 10 月 17 日現在）。
- ・表彰論文選考に参画した。
- ・2020 年の impact factor は、1.418 であった（2021 年 6 月発表による）。

### ② 迅速査読の導入

2020 年 3 月、Fast Track Review（迅速査読）の受付を開始した（博士号の学位申請、または、博士号取得後 1 年以内に論文公開の必要がある会員の投稿が対象）。

（2020 年 20 編・2021 年 10 月 31 日現在 27 編）

### ③ 出版社との契約更新内容検討中

- ・2022 年以降の契約更新プロポーザルを受け取り、検討中。

### ④ JJNS セミナーの開催

- ・JJNS セミナー：Improving Your Success at Publishing in English 2021 を Web 開催する（2021 年 12 月 6 日～2022 年 1 月 31 日）。



### (3) 表彰論文選考委員会（亀井智子理事）

日本看護科学学会が発行する和文誌と英文誌から優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、学会として表彰論文の推薦を実施。また、他組織からの表彰に該当する候補者の推薦も行う。

#### ① 表彰論文の選考

日本看護科学学会が発行する和文誌、および英文誌から優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、表彰論文の推薦を実施した。

- ・ 表彰論文選考手順により、和文誌、英文誌の各編集委員会より審査対象論文 17 編（和文 8 編・英文 9 編）の選定を受け、表彰論文選考委員会で優秀賞・奨励賞候補論文 8 編（和文 2 編 英文 6 編）を審査リストとして作成した。
- ・ 2021 年 9 月 7 日に、全代議員、役員 314 名にメールにて採点を依頼した。
- ・ 10 月 3 日までに返信された 215 件について評価点の集計を行った。回収率 68.5%(215/314)。集計結果に基づき最終選考を行い、以下のように優秀賞 2 編、奨励賞 1 編を決定し、理事会に報告し承認を得た。

#### 【優秀賞】

- ◆ Deep learning-based classification of rectal fecal retention and analysis of fecal properties using ultrasound images in older adult patients  
Masaru Matsumoto, Gojiro Nakagami, Mikako Yoshida, Yuka Miura, Junko Sugama, Hiromi Sanada  
JJNS, 2020, Volume 17, Issue 4(e12340)
- ◆ Safety and the effectiveness of a new education program for nurses to assess swallowing function using fiberoptic endoscopic evaluation of swallowing (FEES)  
Mikako Yoshida, Yayoi Kamakura, Yuka Miura, Yohei Okawa, Hiromi Sanada  
JJNS, 2020, Volume 17, Issue 2(e12313)

#### 【奨励賞】

- ◆ Incidence, risk factors, and assessment of induration by ultrasonography after chemotherapy administration through a peripheral intravenous catheter  
Mari Abe-Doi, Ryoko Murayama, Chieko Komiyama, Hiromi Sanada  
JJNS, 2020, Volume 17, Issue 3(e12329)

#### ② 他組織からの表彰候補者の推薦

- ・ 山上の光賞（第 7 回）からの推薦依頼に対して、適格者を選考し、1 名を推薦した。
- ・ 日本学術振興会賞（第 18 回）からの推薦依頼に対して、適格者を選考し、2 名を推薦した。
- ・ SGH 看護特別賞（第 19 回）からの推薦依頼に対して、適格者を選考し、1 名を推薦した。

#### ③ 学術集会演題表彰制度の検討

第 41 回学術集会から適用する演題表彰制度について、学術集会演題表彰に関する規程を作成し（2020 年 12 月 11 日理事会承認）、定款施行細則を改定した（2021 年 2 月 19 日施行）。

- ・ 賞は「優秀演題口頭発表賞」「若手優秀演題口頭発表賞」「優秀演題ポスター発表賞」「優秀演題抄録賞」とし、選考は 2 段階で行う方法とした。第 1 段階では、演題抄録を登録する際に使用するシステムを利用して、査読者 2 名以上による採点を行い、上位 10 名を選考する。第 2 段階では、学術集会当日の発表について、表彰論文選考委員会で主に採点をして最終選考し、表彰する方法とした。

- ・表彰式の開催タイミングは閉会式とすることとし、第41回学術集会から適用することが合意された。

#### (4) 研究・学術推進委員会（深堀浩樹理事）

看護学の専門分野横断的研究、学際的研究、国際的研究の推進を目的に国内外の看護学研究に関する情報の収集・整理・発信を行う。また研究者ネットワーク構築の仕組みづくりと看護学研究者の研究能力向上のための事業を実施。

##### ① 委員会としての活動

- ・2020年に日本学術振興会の「学術変革領域研究(A)」の令和3(2021)年度における申請において領域代表者となる意思のある人の募集を行い、1件を採択した。さらにこの研究計画による公募に「計画研究代表者」として参加を希望する人を募集し12件を採択した。
- ・領域代表者、研究・学術推進委員会委員、計画研究代表者での検討を経て2021年1月25日に、領域代表者が令和3(2021)年度学術変革領域研究(A)「人々が抱える生きにくさの解放的変容を可能にする意味立脚型医療学(領域略称名:生きにくさの変容)」の領域計画書を日本学術振興会に提出するに至った。
- ・2021年5月7日に「人々が抱える生きにくさの解放的変容を可能にする意味立脚型医療学」はヒアリング対象研究領域とならなかったとの通知を受け、2021年9月17日に審査結果の所見を受け取った。
- ・上記と同様のメンバーで、令和4(2022)年度学術変革領域研究(A)「人々が抱える生きにくさの変容を可能にする意味立脚型医療学(領域略称名:生きにくさの変容)」を2021年10月5日に日本学術振興会に提出した。提出に際しては、研究メンバーでの検討を研究・学術推進委員会が支援した。また、民間業者による領域申請書への科研費申請支援(申請書レビュー)を受けた。
- ・会員の研究の支援活動として、「大型研究費の獲得支援活動」、「オンラインジャーナルクラブの実施」について検討を行った。またJANSセミナーのアーカイブ化についての検討を行った。

##### ② JANSセミナーの開催

- ・第18回JANSセミナー「学術の変革をもたらすリサーチ・マインドを高めよう!」をWeb開催した(2021年8月16日～11月30日まで)。受講者数は、2021年11月9日現在317名(会員291名・非会員18名・基礎教育課程学生8名)である。

##### ③ 第41回学術集会での交流集会の企画

- ・第41回学術集会において交流集会「若手研究者を巻き込んだ大型研究費の獲得を目指して:研究・学術推進委員会の活動報告と今後の課題」を開催する。

#### (5) 看護ケア開発・標準化委員会（須釜淳子理事）

研究活動を推進して若手研究者を育成し、優れた研究成果を国内外に発信していくことを目的に、研究成果のエビデンスに基づき、問題解決に向けた看護技術(看護ケア)を開発・標準化することでNursing Scienceの構築と、臨床や在宅の場で医療を必要とする人々へ還元できる仕組みづくりを目指す。

- ① モデル事業として、Minds診療ガイドライン作成の手引き2014に準拠した「摂食嚥下時の誤嚥・残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン」開発・標準化を目標とする

- ・2021年1月11日 統括委員会実施、その後、公開に向け最終調整を始めた。
- ・2021年2月1日～15日 外部評価、2月4日～15日 JANS 会員からパブリックコメント募集した。
- ・2021年6月 南江堂から発刊「看護ケアのための摂食嚥下時の誤嚥・咽頭残留アセスメントに関する診療ガイドライン」冊子体および電子版 定価 2,530円
- ・社員に冊子体送付、日本語版はJANS ホームページ会員サイトで公開、英語版ガイドラインはJANS 英語ホームページで公開
- ・JJNS にガイドライン一部を投稿中  
MINDS へガイドライン掲載の審査申請

## ② 2019年度採用ケアガイドライン作成グループの活動を支援する

- ・「下部消化管術後患者の長期的排便障害のケアガイドライン構築のためのアセスメントガイドライン」  
佐藤正美代表（東京慈恵会医科大学）
- ・2021年2月26日 17:30-20:00 までグループ会議（オンライン Zoom）があり、現状の進捗と今後の進め方の調整をした。
- ・2021年3月5日 看護ケア開発標準化委員会委員長とグループ代表、総括メンバーとで進捗確認を行った（オンライン Zoom）。
- ・4つのCQにそってレビューを実施し、結果を整理している。
- ・「高齢者排尿誘導ガイドライン」佐藤和佳子代表（山形大学）  
看護ケア開発標準化委員会委員長とグループ代表、メンバーとで進捗確認を行った（オンライン Zoom）。
- ・2021年1月28日、3月22日、8月26日

## ③ 活動状況の公開

- ・第41回学術集会 シンポジウム 12月5日 オンライン

## ④ 2021年度新規ガイドラインの結成と支援

公募（7月20日～8月30日）を行い、理事会にて決定した（9月6日）。

「看護ケアのための慢性便秘のアセスメントに関する診療ガイドライン」須釜淳子代表（藤田医科大学）

## ⑤ 日本薬理学会との共同学術企画

インスリンボールに関するスコアピングレビューを開始した（2021年8月～）

## (6) 若手研究者活動推進委員会（仲上豪二郎理事）

日本学術会議若手アカデミーをはじめ、国内外の多学問分野の若手研究者と積極的な交流を図る。また、学術集会での交流集会の定例的な企画・運営を通して若手研究者を育成し、将来的な看護学の発展に寄与する。

### ① 委員会としての活動

- ・JANS 若手の会ホームページでの情報発信を行った。当委員会の企画について、事前予告に加え、当日の概要に関する事後報告も行った。

- ・ JANS 若手メーリングリストより情報の発信をした。登録者数は 2021 年 3 月現在で計 821 名であり増加中である。当委員会企画の事前予告・事後報告ならびに登録メンバーによる研究・研修活動の投稿が行われた。
- ・ 日本学術会議若手アカデミーからの情報の発信をした。

## ② JANS セミナーの開催

- ・ 第 17 回 JANS セミナー「看護学研究の社会実装：インプリメンテーション研究とデータサイエンスの潮流」（オンデマンド配信）を開催した（2021 年 3 月 22 日～5 月 31 日）。受講者数は 566 名（会員 519 名・非会員 44 名・基礎教育課程学生 3 名）であった。

## ③ COVID-19 が JANS 会員の教育・研究活動に与えた影響の調査

- ・ COVID-19 看護研究等対策委員会へ本委員会から委員を 3 名選出し、調査を実施した。詳細は COVID-19 看護研究等対策委員会の活動報告に記載。また、会員からの要望の多かった調査データのオープンソース化に向け、まずは共同研究者として参画する枠組みを検討した。

## ④ エリア検討会開催支援

- ・ JANS 若手の会 エリア・コーディネーターが主体で企画・運営するエリア検討会の開催支援を行った。2020 年度に開催されたエリア検討会は、中四国エリア検討会（2021 年 3 月 6 日）、北関東エリア検討会（2021 年 3 月 13 日）、関西エリア検討会（2021 年 3 月 6 日）であった。それぞれの開催報告を JANS 若手の会ホームページ上に掲載した。

## (7) 国際活動推進委員会 \* 世界看護科学学会を含む（池田真理理事）

国際学会での優れた日本の研究成果を発信していくことを目的にセミナー・支援策を企画する。また、国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築を目指す。また、世界看護科学学会(World Academy of Nursing Science 「WANS」)の事務局運営も担当。

### ① 委員会としての活動

- ・ 国際活動推進委員会を 4 回（2021 年 4 月 1 日、新メンバーで 8 月 19 日、10 月 21 日、12 月予定）オンラインで開催した。

### ② 委員会企画 交流集会

- ・ 第 41 回学術集会で、交流集会「日本の看護学研究者が海外の研究者とネットワークを構築するために」を開催する。

### ③ 世界看護科学学会（World Academy of Nursing Science : WANS）

- ・ 世界看護科学学会（WANS）事務局業務を引き続き実施した（ホームページ維持管理含む）。
- ・ 現在の理事長が JANS から推薦された片田委員であるが、12 月が任期（2 期）満了となる。したがって、12 月 8 日開催の理事会で選挙を実施する予定で準備を進めている。

### ④ 異文化看護データベース

- ・ 異文化看護データベースの維持・更新について引き続き国際活動推進委員が中心となってデータ更新を進めている。タイのデータを新規に掲載する予定である

## (8) 看護学学術用語検討委員会（大久保暢子理事）

看護学が扱う専門用語（看護学学術用語）の概念的統一を図り、これまでに作成した用語を維持管理・普及を行うシステム構築の検討を実施。また新たな用語を検討・追加するための以下の委員会活動を行った。

### ① 用語「セルフケア」の検討と再定義化

・研究計画書に準じてフォーカスグループインタビュー調査を実施し、逐語録に対する内容分析を行い、再定義を行った。

フォーカスグループインタビューは2グループに実施した。対象者は計13名（女性10名、男性3名）、平均実務年数22.5年、専門領域は、救急2名、回復期1名、精神2名、小児1名、母性・助産1名、老年2名、急性期1名、慢性期1名、在宅1名、管理1名であった。

### ② 既存の100の用語の電子システム化と新用語追加に対する募集要項等の作成

・過去の委員会活動で作成された100の用語を広く会員に活用してもらえるよう電子システム化を進めている。それによりデジタル上での検索を容易にしていける。また新用語を今後、電子システム上に追加できるよう新用語の追加に関する募集要項、審査基準等を作成中である。

### ③ JANS41での交流セッションの開催

・「セルフケア」の新しい定義を交流集会で公表し、意見交換を行う。同時に100の用語の電子システム化を公表し、活用を促すアナウンスを行う。

### ④ 日本看護協会主催「看護にかかわる用語の検討委員会」への参加

・上記委員会（9月15日、11月1日）に参加し、看護で扱う用語について意見交換を行った。

## (9) 社会貢献委員会（大久保暢子理事）

一般市民を対象に看護学を通じた社会への貢献やその方策の研究、普及を目的に、学術集会開催時に「市民公開講座」や次世代の看護学研究者育成事業「ナースィング・サイエンス・カフェ」などを実施。

### ① 第41回学術集会において市民公開講座を開催

・第41回学術集会で市民公開講座「感染症流行時の災害に備える ～社会的弱者の安全と健康を守る～」(Web配信)を開催する。

視聴期間：2021年11月29日～12月28日

・演者：愛知県立大学 看護学部 教授：清水宣明氏

### ② JANS42の「市民公開講座」等について

・講師の選定や次世代育成事業の新企画の開催について、併せて検討する。

## (10) 広報委員会（法橋尚宏副理事長）

日本看護科学学会の広報活動を担当、委員会成果物の公表、学術集会の周知（プレスリリース等の作成・配布、当日の記録の保存）、学会ウェブサイトの定期的な更新や維持・管理等を実施。

### ① ウェブサイトの維持・管理・改善

・本会公式ウェブサイトの維持・管理・改善を事務所と協力のうえ定期的に行った。

## ② 学術集会等の広報活動

- ・ 第 40 回学術集会の様子をスクリーンショットにおさめ、記録として本会ウェブサイトに掲載した。
- ・ 第 41 回学術集会の市民フォーラム（市民公開講座）の広報活動を行った。

## ③ 委員会成果物の公表

- ・ JANS 研究論文を実践へトランスレーションする企画「看護研究の玉手箱」において、2020 年度表彰論文の追加掲載を行った。

## ④ 英語版ウェブサイトのリニューアル

- ・ 英語版ウェブサイトのリニューアルを行った（2021 年 6 月）。

## ⑤ デジタル広報の推進

- ・ Facebook ページ（会員が交流できる会員フォーラム）と YouTube チャンネル（電子的広報の場）の開設、本会のマスコットキャラクターを整備し、デジタル広報を推進した。
- ・ 会員向けのニューズレター（電子メールで一斉配信）の創刊の準備をした。

## (11) 看護倫理検討委員会（手島恵理事）

看護学が関連する研究・教育・臨床における倫理的課題の整理および即時的対応を目的に、研究者のモラル向上や看護学が関連する倫理的な社会事象に対する情報収集・提供と学会としての対応策の検討、社会に向けた見解の発信を実施する。

- ・ 研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。
- ・ 看護学が関連する倫理的な社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。

## (12) 利益相反委員会（井上智子理事）

役員等の潜在的利益相反判定を実施し、該当の案件について判定し、不適切な事象が起こらないようマネジメントする。また、重大な COI 状態が生じた場合は、本委員会が諮問し答申に基づき改善措置を実施する。

- ・ 和文誌・英文誌投稿時の利益相反申告を引き続き実施した。
- ・ セミナー等の講師の利益相反申告を実施した。
- ・ 学術活動の利益相反に関する本学会の細則等の見直しを行うことを計画した。
- ・ 日本看護科学学会における学術活動の利益相反マネジメント指針・細則との整合性を検討した。

## (13) 研究倫理審査委員会（井上智子理事）

学会員による人を対象とした看護研究が、倫理的配慮のもとに行われるかどうかを審査する。

### 研究倫理審査の実施

- ・ 2 件の申請があり、通常審査を行った。（2021 年 3 月）

通常審査のために Zoom 会議（2021 年 3 月 25 日）と、メール会議を各 1 回行った。

#### (14) 災害看護支援委員会（近藤暁子理事）

看護系学会と連携し情報収集や災害時の活動について検討している。

- ・ 災害発生時には、緊急に拡大災害支援対策委員会を組織し、災害に対応していくこととしている。今期は該当なし。
- ・ 日本看護系学会協議会の災害看護連携会議に参加して情報収集を行い、他の看護系学会との連携のもとでの災害時活動内容を検討することとしている。今期は該当なし。
- ・ 日本学術会議公開シンポジウム『コロナ禍におけるトリアージの問題 ―世界の事例から日本を考察する』に参加した(2021年8月29日オンライン)。
- ・ 日本学術会議公開シンポジウム「コロナ禍における社会の分断:ジェンダー格差に着目して」に参加した(2021年9月19日オンライン)。
- ・ 日本学術会議緊急フォーラム「新型コロナウイルス感染症の災害級流行急拡大への対応」に参加した(2021年9月19日オンライン)。
- ・ 日本学術会議公開シンポジウム「WITH/AFTER コロナ時代の看護とデジタルトランスフォーメーション」に参加した(2021年9月25日オンライン)。
- ・ 「コロナ患者の対応を本務としていないJANS会員（教員、大学院生など）のCOVID-19支援の現状及び所属機関からのサポートに関する調査」の準備を行う。

#### (15) 若手研究者助成選考委員会（亀井智子理事）

2020年からの準備委員会の活動を経て、2021年4月から若手研究者への助成を開始した。

- ・ 2020年度第4回理事会での内閣府公益認定等委員会への変更認定申請の承認を経て、準備委員会および事務所、会計士との協力により書類を作成し2020年12月23日に申請、2021年3月31日に本件に関する認定書が届いた。
  - ・ 初年度である2021年度上期は3件の申請があり、2件の海外留学について助成を決定した。
  - ・ 2021年度下期の募集を9月10日から10月31日まで実施し、問い合わせはあったが応募はなかった。
- 2022年度の予定について
- ・ 2022年度の募集について、海外留学は11月22日から実施予定である。また、海外学術集会への出席については2022年4月から随時募集を開始の予定。

#### (16) 会則等委員会（石橋みゆき理事）2020年6月新設

本委員会は、定款や各種規定等の見直しを通して公益社団法人として継続的かつ発展的な学会運営を行うため2020年6月に設置された委員会である。

##### ① 新規事業開始、規程類の改正に伴う定款の改正事項の点検及び改正内容の検討

- ・ 若手研究者の育成及び支援に関する新規事業の定款への反映（2021年3月31日施行）。
- ・ 正会員に関する記載について、下位の会則変更の内容が定款に及ぼす影響を検討し、改正の必要性の検討を始めた。

##### ② 定款の見直しに伴う下位規則等の見直しの必要性の検討



## (17) COVID-19 看護研究等対策委員会（須釜淳子理事）

本委員会は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって生活が一変した社会において公益社団法人日本看護科学学会の定款第2条に定める「看護学の発展を図り、広く知識の交流に努め、もって人々の健康と福祉に貢献する」に基づき、この COVID-19 の状況下で何ができるのかを実践するために時限的（2～3年）な活動をすることで理事会承認により設置された。

- ・ 会員調査結果を報告書（日本語版、英語版）としてまとめ、学会 HP 上で公開した（2021年3月）。
- ・ 調査報告結果を解析し、海外専門学術誌に投稿し、JJNS に採択され、9月8日にオンライン公開された（e12454）。
- ・ 取得済み調査データの分析・論文執筆を行う学会主導型研究プロジェクト（指定課題型・自由課題型）6チームとの全体ミーティングを行った（1月9日 オンライン）
- ・ データマネジメントに関する研究者間の合意事項を作成した（2月）
- ・ 第2回目調査について検討を開始した（8月26日～）
- ・ 第41回日本看護科学学会学術集会にて、若手研究者活動推進委員会と共同でシンポジウムを開催

## (18) 総務委員会（中村幸代理事）

学会事務所の運営、会員の入会審査、会員管理を実施した。（会員数等については、総務報告を参照）

### ① 入会審査、会員管理の実施

入会審査、会員管理は IT の導入による合理化と効率化を推進、併せて個人情報の扱いにも細心の注意を払った。2021年の入会審査数は、710名であった（2021年10月現在）。

### ② 学会事務所の運営

- ・ 学会事務所は、社会への本会の窓口であり、学会管理や他の委員会活動を支える拠点と意識して運営・管理を心掛けた。
- ・ 事務所職員と緊密に連携をとり情報共有に努めた。併せて定期的な事務所の訪問と職員面談を実施し、業務遂行状況の把握をした。特に COVID-19 対策について、在宅勤務の併用、事務所内での感染対策等が円滑に実施できるよう支援した。
- ・ 理事会、社員総会、学会総会に関し、役員確認に先立って議事録の確認を行うことで、役員の確認業務軽減と正確な記載内容の徹底に努めた。

## (19) 他機関との連携活動

### ① 日本看護系学会協議会（JANA）（法橋尚宏副理事長）

- ・ 2021年度社員総会は、COVID-19の感染拡大を防ぐため、昨年と同様に開催形式を変更して開催された。
- ・ 2021年5月29日（土）に、書面総会資料を踏まえての各社員学会との意見交換会に出席した（オンライン開催）。
- ・ 2021年度社員総会に書面議決書で出席した（2021年6月19日（日）開催）。

議案：2020年度決算報告、2020年度会計監査報告、2021-2022年度役員選挙による新役員の選任

- ・医療事故報告制度に関する支援の一環として、一般社団法人日本医療安全調査機構からの依頼により、2021年1月以降は8名の会員を個別調査部会員に推薦した。この協力については2016年度から行ってきた。併せて毎年開催の協力学会説明会にも参加した（2021年3月17日オンラインにて）。
- ・その他、JANAから提供された情報を必要に応じ会員、役員にメール配信し共有した。

#### ② 看護系学会等社会保険連合（看保連）（大久保暢子理事）

- ・看保連2021年度研究助成への応募について、申請があった4件を審査し、1件を承認した。

#### ③ 日本学術会議（法橋尚宏副理事長）

- ・日本学術会議から提供のあったニュース・メールを役員に提供した。

#### ④ その他の機関（法橋尚宏副理事長）

対応すべき事案はなかった。

#### (20) 選挙管理委員会（中村幸代理事）

- ・理事候補者選挙を行った。  
電子投票受付期間：2021年2月1日（月）正午～28日（日）23：59  
開票：2021年3月1日（月）午後3時より
- ・2021年3月1日（月）第2回選挙管理委員会を開催した。
- ・2021年4月19日（月）第3回選挙管理委員会を開催した。  
理事候補者名簿の作成を行った。
- ・2021年5月21日（月）第1回理事会に理事候補者名簿を提出した。

2021年度 収支補正予算書(案)  
2021年 4月 1日 から2022年 3月 31日 まで

科 目	補足	2021年度 補正予算額 (2021. 4. 1~ 2022. 3. 31)	2021年度 予算額 (2021. 4. 1~ 2022. 3. 31)	差異
<b>I 事業活動収支の部</b>				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入		500	500	0
特定資産受取利息収入		500	500	0
②会費収入		101,750,000	101,750,000	0
正会員会費収入		101,500,000	101,500,000	0
賛助会員会費収入		250,000	250,000	0
③学会誌収入		1,494,000	1,494,000	0
学会誌販売収入		456,000	456,000	0
著作権料収入		738,000	738,000	0
その他学会誌収入		300,000	300,000	0
④寄附金・助成金収入(学術集會含まず)		0	0	0
⑤セミナー収入		3,065,000	3,065,000	0
JANSセミナー		1,935,000	1,935,000	0
JJNSセミナー		1,130,000	1,130,000	0
⑥雑収入		500	500	0
受取利息収入		500	500	0
⑦学術集會収入		54,315,000	54,315,000	0
学術集會参加費収入		45,000,000	45,000,000	0
事前登録会員(11,000円)		17,600,000	17,600,000	0
事前登録非会員(14,000円税込)		11,200,000	11,200,000	0
事前登録学部生		0	0	0
当日登録会員(13,000円)		11,700,000	11,700,000	0
当日登録非会員(15,000円税込)		4,500,000	4,500,000	0
当日登録学部生		0	0	0
寄附金・助成金収入		430,000	430,000	0
寄附金		30,000	30,000	0
助成金		400,000	400,000	0
広告販売収入		8,885,000	8,885,000	0
企業展示出展料		5,962,000	5,962,000	0
広告掲載料		2,123,000	2,123,000	0
ランチョンセミナー		800,000	800,000	0
懇親会収入		0	0	0
<b>事業活動収入合計(I a)</b>		<b>160,625,000</b>	<b>160,625,000</b>	<b>0</b>
2. 事業活動支出				
①事業費支出		107,726,000	98,426,000	9,300,000
学会誌発行費支出		29,440,000	27,440,000	2,000,000
和文誌編集費支出		9,640,000	8,640,000	1,000,000
英文誌編集費支出		19,800,000	18,800,000	1,000,000
編集活動費支出		1,255,000	1,255,000	0
和文誌編集委員会費支出		315,000	315,000	0
英文誌編集委員会費支出		940,000	940,000	0
看護学術振興費支出		13,495,000	6,695,000	6,800,000
表彰論文選考委員会費支出		271,000	271,000	0
研究・学術推進委員会費支出		465,000	465,000	0
看護ケア開発・標準化委員会		9,770,000	2,970,000	6,800,000
若手研究者活動推進委員会費支出		487,000	487,000	0
国際活動推進委員会費支出		700,000	700,000	0
COVID-19看護研究等対策委員会費支出		400,000	400,000	0
看護学術用語検討委員会費支出		767,000	767,000	0
看護倫理検討委員会費支出		535,000	535,000	0
災害看護支援委員会支出		100,000	100,000	0
研究学術活動支援費支出		7,832,000	7,332,000	500,000
受賞論文表彰費支出		1,693,000	1,193,000	500,000
若手研究者助成金支出		3,000,000	3,000,000	0
若手研究者助成選考委員会		100,000	100,000	0
研究倫理審査委員会費		94,000	94,000	0
JANSセミナー開催費		1,815,000	1,815,000	0
JJNSセミナー開催費		1,130,000	1,130,000	0
社会的活動費支出		1,510,000	1,510,000	0
社会貢献委員会支出(市民フォーラム開催費含む)		705,000	705,000	0
広報委員会費支出(公益目的事業分)		805,000	805,000	0

科 目	補足	2021年度 補正予算額 (2021. 4. 1～ 2022. 3. 31)	2021年度 予算額 (2021. 4. 1～ 2022. 3. 31)	差異
学術集会費支出		54,194,000	54,194,000	0
当年度開催学術集会		51,378,000	51,378,000	0
会場費支出		23,794,000	23,794,000	0
会議費支出		1,079,000	1,079,000	0
旅費交通費支出		892,000	892,000	0
消耗品費支出		4,420,000	4,420,000	0
通信運搬費支出(プログラム送料含む)		1,792,000	1,792,000	0
印刷製本費支出(プログラム印刷費含む)		4,173,000	4,173,000	0
委託費支出		11,857,000	11,857,000	0
人件費支出		240,000	240,000	0
謝金支出		1,040,000	1,040,000	0
雑支出		2,091,000	2,091,000	0
懇親会運営費支出		0	0	0
次年度開催学術集会(準備期間)		2,816,000	2,816,000	0
会場費支出		0	0	0
会議費支出		100,000	100,000	0
旅費交通費支出		400,000	400,000	0
消耗品費支出		360,000	360,000	0
通信運搬費支出(学術集会のご案内送料含む)		856,000	856,000	0
印刷製本費支出(学術集会のご案内印刷含む)		600,000	600,000	0
委託費支出		300,000	300,000	0
人件費支出		200,000	200,000	0
謝金支出		0	0	0
雑支出		0	0	0
②管理費支出		59,986,000	59,786,000	200,000
給料手当支出		24,770,000	24,770,000	0
福利厚生費支出		4,350,000	4,350,000	0
通勤費支出		1,910,000	1,910,000	0
退職給付支出		300,000	300,000	0
学会総会費		500,000	500,000	0
社員総会費		2,165,000	4,665,000	△ 2,500,000
理事会費		1,478,000	2,978,000	△ 1,500,000
委託費支出		10,925,000	6,725,000	4,200,000
人件費支出		50,000	50,000	0
渉外費支出		20,000	20,000	0
旅費交通費支出		330,000	330,000	0
通信運搬費支出		2,190,000	2,190,000	0
消耗品費支出		1,200,000	1,200,000	0
印刷製本費支出		62,000	62,000	0
慶弔費支出		50,000	50,000	0
光熱水料費支出		737,000	737,000	0
賃借料支出		4,283,000	4,283,000	0
保険料支出		84,000	84,000	0
諸謝金支出		50,000	50,000	0
租税公課支出		650,000	650,000	0
負担金支出		430,000	430,000	0
修繕費支出		50,000	50,000	0
雑支出		2,460,000	2,460,000	0
総務費支出		942,000	942,000	0
総務委員会費支出		20,000	20,000	0
利益相反委員会費支出		109,000	109,000	0
広報委員会費支出(法人会計分)		20,000	20,000	0
会則等検討委員会費支出		700,000	700,000	0
選挙費用支出		93,000	93,000	0
③その他支出		2,200,000	2,200,000	0
資格喪失者会費支出		2,200,000	2,200,000	0
<b>事業活動支出合計(I b)</b>		<b>169,912,000</b>	<b>160,412,000</b>	<b>9,500,000</b>
<b>事業活動収支差額(I a)-(I b)</b>		<b>△ 9,287,000</b>	<b>213,000</b>	<b>△ 9,500,000</b>

科 目		2021年度 補正予算額 (2021. 4. 1～ 2022. 3. 31)	2021年度 予算額 (2021. 4. 1～ 2022. 3. 31)	差異
<b>Ⅱ 投資活動収支の部（資金の内部移動）</b>				
1. 投資活動収入（各種立金を取り崩し、それを資金として使用する）				
選挙積立取崩（選挙費用として使用）		93,000	93,000	0
退職給付引当資産取崩		300,000	300,000	0
若手研究者助成資金取崩		3,000,000	3,000,000	0
長期前払費用振替収入（事務所更新料）		0	0	0
<b>投資活動収入合計（Ⅱa）</b>		<b>3,393,000</b>	<b>3,393,000</b>	<b>0</b>
2. 投資活動支出（目的のある積立をするために、事業活動の資金を各積立預金に振り替える）				
選挙積立預金		1,000,000	1,000,000	0
退職給付引当金積立		950,000	950,000	0
什器備品購入支出		0	0	0
一脚償却資産購入支出		0	0	0
事務所更新料（長期前払費用）		110,000	110,000	0
<b>投資活動支出合計（Ⅱb）</b>		<b>2,060,000</b>	<b>2,060,000</b>	<b>0</b>
<b>投資活動収支差額（Ⅱa）-（Ⅱb）</b>		<b>1,333,000</b>	<b>1,333,000</b>	<b>0</b>
<b>Ⅲ 財務活動収支の部</b>				
1. 財務活動収入				
財務活動収入合計（Ⅲa）		0	0	0
2. 財務活動支出				
財務活動支出合計（Ⅲb）		527,000	527,000	0
<b>財務活動収支差額（Ⅲa）-（Ⅲb）</b>		<b>△ 527,000</b>	<b>△ 527,000</b>	<b>0</b>
<b>Ⅳ 予備費支出</b>		<b>1,000,000</b>	<b>1,000,000</b>	<b>0</b>
<b>当期収支差額</b>		<b>△ 9,481,000</b>	<b>19,000</b>	<b>△ 9,500,000</b>
<b>前期繰越収支差額</b>	※1	<b>113,336,000</b>	<b>113,336,000</b>	<b>0</b>
<b>次期繰越収支差額</b>		<b>103,855,000</b>	<b>113,355,000</b>	<b>△ 9,500,000</b>

※1 前期繰越収支差額を修正。（誤）113,355,000→（正）113,336,000円。

## 第 2 号議案

### 2021 年度事業計画変更（案）と 2 次補正予算（案）の承認

#### 1. 第 41 回学術集会の開催方法の変更

名古屋国際会議場で開催を予定していたが、オンラインによる Web 開催に変更した。

2021年度 収支予算書(2次補正) 案  
2021年 4月 1日 から2022年 3月 31日 まで

科 目	補足	2021年 2次補正予算額 (2021. 4. 1~ 2022. 3. 31)	2021年度 補正予算額 (2021. 4. 1~ 2022. 3. 31)	差異
<b>I 事業活動収支の部</b>				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入		500	500	0
特定資産受取利息収入		500	500	0
②会費収入		101,750,000	101,750,000	0
正会員会費収入		101,500,000	101,500,000	0
賛助会員会費収入		250,000	250,000	0
③学会誌収入		1,494,000	1,494,000	0
学会誌販売収入		456,000	456,000	0
著作権料収入		738,000	738,000	0
その他学会誌収入		300,000	300,000	0
④寄附金・助成金収入(学術集會含まず)		0	0	0
⑤セミナー収入		3,065,000	3,065,000	0
JANSセミナー		1,935,000	1,935,000	0
JJNSセミナー		1,130,000	1,130,000	0
⑥雑収入		500	500	0
受取利息収入		500	500	0
⑦学術集會収入		40,354,000	54,315,000	△ 13,961,000
学術集會参加費収入		37,810,000	45,000,000	△ 7,190,000
事前登録会員(11,000円)		30,800,000	17,600,000	13,200,000
事前登録非会員(14,000円税込)		7,000,000	11,200,000	△ 4,200,000
事前登録留学生(2,000円税込)		10,000	0	10,000
事前登録学部生		0	0	0
当日登録会員(13,000円)		0	11,700,000	△ 11,700,000
当日登録非会員(15,000円税込)		0	4,500,000	△ 4,500,000
当日登録学部生		0	0	0
寄附金・助成金収入		400,000	430,000	△ 30,000
寄附金		0	30,000	△ 30,000
助成金	※2	400,000	400,000	0
広告販売収入		2,144,000	8,885,000	△ 6,741,000
企業展示出展料	※3	0	5,962,000	△ 5,962,000
広告掲載料	※4	1,144,000	2,123,000	△ 979,000
ランチョンセミナー	※5	1,000,000	800,000	200,000
<b>事業活動収入合計(I a)</b>		<b>146,664,000</b>	<b>160,625,000</b>	<b>△ 13,961,000</b>
2. 事業活動支出				
①事業費支出		92,590,000	107,726,000	△ 15,136,000
学会誌発行費支出		29,440,000	29,440,000	0
和文誌編集費支出		9,640,000	9,640,000	0
英文誌編集費支出		19,800,000	19,800,000	0
編集活動費支出		1,255,000	1,255,000	0
和文誌編集委員会費支出		315,000	315,000	0
英文誌編集委員会費支出		940,000	940,000	0
看護学術振興費支出		13,495,000	13,495,000	0
表彰論文選考委員会費支出		271,000	271,000	0
研究・学術推進委員会費支出		465,000	465,000	0
看護ケア開発・標準化委員会		9,770,000	9,770,000	0
若手研究者活動推進委員会費支出		487,000	487,000	0
国際活動推進委員会費支出		700,000	700,000	0
COVID-19看護研究等対策委員会費支出		400,000	400,000	0
看護学術用語検討委員会費支出		767,000	767,000	0
看護倫理検討委員会費支出		535,000	535,000	0
災害看護支援委員会支出		100,000	100,000	0
研究学術活動支援費支出		7,832,000	7,832,000	0
受賞論文表彰費支出		1,693,000	1,693,000	0
若手研究者助成金支出		3,000,000	3,000,000	0
若手研究者助成選考委員会		100,000	100,000	0
研究倫理審査委員会費		94,000	94,000	0
JANSセミナー開催費		1,815,000	1,815,000	0
JJNSセミナー開催費		1,130,000	1,130,000	0
社会的活動費支出		1,510,000	1,510,000	0
社会貢献委員会支出(市民フォーラム開催費含む)		705,000	705,000	0
広報委員会費支出(公益目的事業分)		805,000	805,000	0

科 目	補足	2021年 2次補正予算額 (2021. 4. 1～ 2022. 3. 31)	2021年度 補正予算額 (2021. 4. 1～ 2022. 3. 31)	差異
学術集会費支出		<b>39,058,000</b>	<b>54,194,000</b>	<b>△ 15,136,000</b>
当年度開催学術集会		<b>36,242,000</b>	<b>51,378,000</b>	<b>△ 15,136,000</b>
会場費支出	※6	5,706,000	23,794,000	△ 18,088,000
会議費支出	※7	457,000	1,079,000	△ 622,000
旅費交通費支出	※8	370,000	892,000	△ 522,000
消耗品費支出	※9	1,800,000	4,420,000	△ 2,620,000
通信運搬費支出(プログラム送料含む)	※10	2,231,000	1,792,000	439,000
印刷製本費支出(プログラム印刷含む)		4,126,000	4,173,000	△ 47,000
委託費支出	※11	17,943,000	11,857,000	6,086,000
人件費支出		240,000	240,000	0
謝金支出		1,292,000	1,040,000	252,000
雑支出		2,077,000	2,091,000	△ 14,000
次年度開催学術集会(準備期間)		<b>2,816,000</b>	<b>2,816,000</b>	<b>0</b>
会場費支出		0	0	0
会議費支出		100,000	100,000	0
旅費交通費支出		400,000	400,000	0
消耗品費支出		360,000	360,000	0
通信運搬費支出(学術集会のご案内送料含む)		856,000	856,000	0
印刷製本費支出(学術集会のご案内印刷含む)		600,000	600,000	0
委託費支出		300,000	300,000	0
人件費支出		200,000	200,000	0
謝金支出		0	0	0
雑支出		0	0	0
<b>②管理費支出</b>		<b>59,986,000</b>	<b>59,986,000</b>	<b>0</b>
給料手当支出		24,770,000	24,770,000	0
福利厚生費支出		4,350,000	4,350,000	0
通勤費支出		1,910,000	1,910,000	0
退職給付支出		300,000	300,000	0
学会総会費		500,000	500,000	0
社員総会費		2,165,000	2,165,000	0
理事会費		1,478,000	1,478,000	0
委託費支出		10,925,000	10,925,000	0
人件費支出		50,000	50,000	0
渉外費支出		20,000	20,000	0
旅費交通費支出		330,000	330,000	0
通信運搬費支出		2,190,000	2,190,000	0
消耗品費支出		1,200,000	1,200,000	0
印刷製本費支出		62,000	62,000	0
慶弔費支出		50,000	50,000	0
光熱水料費支出		737,000	737,000	0
賃借料支出		4,283,000	4,283,000	0
保険料支出		84,000	84,000	0
諸謝金支出		50,000	50,000	0
租税公課支出		650,000	650,000	0
負担金支出		430,000	430,000	0
修繕費支出		50,000	50,000	0
雑支出		2,460,000	2,460,000	0
総務費支出		942,000	942,000	0
総務委員会費支出		20,000	20,000	0
利益相反委員会費支出		109,000	109,000	0
広報委員会費支出(法人会計分)		20,000	20,000	0
会則等検討委員会費支出		700,000	700,000	0
選挙費用支出		93,000	93,000	0
<b>③その他支出</b>		<b>2,200,000</b>	<b>2,200,000</b>	<b>0</b>
資格喪失者会費支出		2,200,000	2,200,000	0
<b>事業活動支出合計(I b)</b>		<b>154,776,000</b>	<b>169,912,000</b>	<b>△ 15,136,000</b>
<b>事業活動収支差額(I a)-(I b)</b>		<b>△ 8,112,000</b>	<b>△ 9,287,000</b>	<b>1,175,000</b>



科 目	2021年 2次補正予算額 (2021. 4. 1～ 2022. 3. 31)	2021年度 補正予算額 (2021. 4. 1～ 2022. 3. 31)	差異
<b>Ⅱ 投資活動収支の部（資金の内部移動）</b>			
1. 投資活動収入（各種立金を取り崩し、それを資金として使用する）			
選挙積立取崩（選挙費用として使用）	93,000	93,000	0
退職給付引当資産取崩	300,000	300,000	0
若手研究者助成資金取崩	3,000,000	3,000,000	0
長期前払費用振替収入（事務所更新料）	0	0	0
<b>投資活動収入合計（Ⅱa）</b>	<b>3,393,000</b>	<b>3,393,000</b>	<b>0</b>
2. 投資活動支出（目的のある積立をするために、事業活動の資金を各積立預金に振り替える）			
選挙積立預金	1,000,000	1,000,000	0
退職給付引当金積立	950,000	950,000	0
什器備品購入支出	0	0	0
一脚償却資産購入支出	0	0	0
事務所更新料（長期前払費用）	110,000	110,000	0
<b>投資活動支出合計（Ⅱb）</b>	<b>2,060,000</b>	<b>2,060,000</b>	<b>0</b>
<b>投資活動収支差額（Ⅱa）-（Ⅱb）</b>	<b>1,333,000</b>	<b>1,333,000</b>	<b>0</b>
<b>Ⅲ 財務活動収支の部</b>			
1. 財務活動収入			
<b>財務活動収入合計（Ⅲa）</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
2. 財務活動支出			
<b>財務活動支出合計（Ⅲb）</b>	<b>527,000</b>	<b>527,000</b>	<b>0</b>
<b>財務活動収支差額（Ⅲa）-（Ⅲb）</b>	<b>△ 527,000</b>	<b>△ 527,000</b>	<b>0</b>
<b>Ⅳ 予備費支出</b>	<b>1,000,000</b>	<b>1,000,000</b>	<b>0</b>
<b>当期収支差額</b>	<b>△ 8,306,000</b>	<b>△ 9,481,000</b>	<b>1,175,000</b>
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>113,336,000</b>	<b>113,336,000</b>	<b>0</b>
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>105,030,000</b>	<b>103,855,000</b>	<b>1,175,000</b>

- ※1 昨年度の実績等を勘案し、当初予算と同じ参加者数を見込んでいるが、当日区分がなくなったため、参加費収入としては減額した。
- ※2 愛知県看護協会の助成は受取済み（100,000円）。大幸財団の助成は、10月に結果が判明する予定（300,000円）。
- ※3 Web開催により、会場展示がなくなったため。
- ※4 目標額の広告料等を得ることができなかったため。
- ※5 想定していた4社を上回る申し込みがあり、5社に枠を増加した。
- ※6 Web開催への変更に伴い、会場開催予定地であった国際会議場キャンセル料と、Web開催時の会場となる愛知県立大学の施設使用料が発生した。
- ※7 当日のスタッフ数が減少したため（会場開催486名→Web開催140名）減額した。
- ※8 座長および講師には、事前収録および各自でZoomにアクセスすることを依頼しているため、講師等の旅費は不要となったが、緊急に何等かの対応が必要になった場合の予備費を新たに計上した。
- ※9 コングレスバッグの制作費用および参加者のネームホルダー等の消耗品が不要となり、減額した。
- ※10 発送作業費を新たに計上したため、増額した。
- ※11 Web配信プラットフォーム費用（配信システム・発表データ登録等）を新たに計上したため、増額した。

## 第3号議案

# 公益社団法人 日本看護科学学会 2022年度事業計画（案）

（2022年4月1日～2023年3月31日）

### (1) 学術集会

- ・ 第42回日本看護科学学会学術集会準備  
第42回学術集会会長：森山美知子（広島大学）  
日程：2022年12月3日（土）・12月4日（日）  
場所：広島国際会議場他
- ・ 第43回日本看護科学学会学術集会開催  
第43回学術集会会長：田中マキ子（山口県立大学）  
日程：2023年12月9日（土）・12月10日（日）  
場所：海峡メッセ下関、下関市生涯学習プラザ（DREAM SHIP）
- ・ 第44回日本看護科学学会学術集会準備

### (2) 和文誌編集委員会（宮下光令理事）

- ・ 日本看護科学会誌第42巻を発行する。
- ・ 投稿規程・執筆要領を改訂する。
- ・ 査読ガイドライン等の見直しを含め、査読システムの効果的運用と質向上をはかる。
- ・ 学会誌への投稿を促進し、掲載数増加を図る。
- ・ 学会誌への投稿・掲載の促進および編集委員、査読者の活動を支援する教育プログラム（交流集会）を開催する。

### (3) 英文誌編集委員会（江藤宏美理事）

- ・ Japan Journal of Nursing Science Vol. 19 を発行する。
- ・ JJNS セミナー2022 を開催する。
- ・ インパクトファクター向上を念頭に置いた査読基準を確立する。
- ・ 国内若手研究者の投稿数増加を図る。
- ・ 迅速査読を含む投稿数増加に対応する査読システムを整備する。

### (4) 表彰論文選考委員会（亀井智子理事）

- ・ 表彰論文の選考を行い公表する。
- ・ 学術集会における演題表彰制度を運用し、選考を行い、閉会式において演題表彰を実施する。
- ・ 他機関からの表彰に該当する候補者の推薦を行う。

#### **(5) 研究・学術推進委員会（深堀浩樹理事）**

- ・ 会員の研究の支援活動
  - ① 大型研究費の獲得支援活動
  - ② オンラインジャーナルクラブの実施の検討
- ・ JANS セミナーの企画・開催・アーカイブ化
- ・ その他研究・学術推進に関する事業を実施する

#### **(6) 看護ケア開発・標準化委員会（須釜淳子理事）**

- ・ 2019 年度採択のガイドライン作成チームの活動成果としてガイドライン草案、レビュー論文を公開する。
- ・ 2021 年度採択のガイドライン作成チームの推奨文決定を行い、最終化の準備に着手する。
- ・ 日本薬理学会との共同学術企画の成果として、レビュー論文を投稿する。

#### **(7) 若手研究者活動推進委員会（仲上豪二郎理事）**

- ・ 若手ネットワーク活性化のための各種チャンネルの系統的活用法を検討する。
- ・ エリア・コーディネーターとの連携を強化するために、エリア・コーディネーター会議を開催し、エリアごとに実施することと全体で実施することを明確化する。
- ・ バーチャル交流会を実施する。
- ・ Journal club（研究・学術推進委員会）に参画する。
- ・ 日本心理学会との連携強化のための活動を行う。
- ・ COVID-19 第 2 回調査（COVID-19 看護研究等対策委員会）に参画する。
- ・ 国際化の推進に向けた JANS セミナーを企画・運営する。
- ・ 交流集会を企画・運営する。
- ・ 広報活動（学会ウェブサイトの更新、リーフレットの作成）の充実を図る。

#### **(8) 国際活動推進委員会（池田真理理事）**

- ・ 国際学会での研究発表の増加施策としてセミナー等の企画を行う。
- ・ 国際的研究活動への参加支援を若手研究者助成選考委員会と協働で実施する。
- ・ 海外学術団体と交流するための活動を行う。
- ・ JANS ホームページ内「異文化看護データベース」を更新する。

#### **(9) 看護学学術用語検討委員会（大久保暢子理事）**

- ・ 構築した電子システムに既存の 100 の看護学学術用語を掲載し、実装状況をアクセス数等で評価する。

- ・新しい看護学学術用語を追加するための募集と審査を行い、電子システムへの追加を行う。
- ・JANS42にて交流セッションを開催し、看護学学術用語の普及と用語追加の募集を行う。

#### (10) 社会貢献委員会（大久保暢子理事）

- ・第42回学術集会にて「市民公開講座」を開催する。
- ・第42回学術集会と協働で、次世代育成事業として新企画を検討・開催・評価を行う。
- ・市民公開講座のアーカイブ化を行い、会員への情報提供を可能にする。
- ・Journal club（研究・学術推進委員会）に参画する。

#### (11) 広報委員会（法橋尚宏副理事長）

- ・学会ホームページ（日本語・英語）の更新・管理・評価と改善を行う他、他委員会との連携による学会活動の広報活動を展開する。
- ・WANSに関連した広報（①WANS学術集会の広報、②WANS学術集会におけるJANSの広報）について検討する。
- ・学術集会に関する広報活動（①次回学術集会企画委員会と社会貢献委員会との連携による学術集会の広報活動、②学術集会の記録）を行う。
- ・研究を実践へトランスレーションするための広報「看護研究の玉手箱」において、表彰論文の紹介を行う。
- ・会員への情報提供のためにニューズレターを創刊、定期的に会員宛に電子メールで一斉配信を行う。
- ・学会のFacebookページとYouTubeチャンネルを開設し、Facebookページは会員が交流できる会員フォーラム、YouTubeチャンネルは電子的広報の場として活用する。
- ・学会のマスコットキャラクターを制作し、これを広報活動に活用する。

#### (12) 看護倫理検討委員会（手島恵理事）

- ・看護学が関連する倫理的な社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。
- ・研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。

#### (13) 利益相反委員会（井上智子理事）

- ・役員、委員会委員、和文誌・英文誌投稿者、学術集会における発表者を対象にCOIを実施し、評価を行う。
- ・日本看護科学学会における学術活動の利益相反マネジメント指針・細則・COI申告書を変更する。

#### **(14) 研究倫理審査委員会（井上智子理事）**

- ・申請があり次第、倫理審査（メール審査、委員会招集審査のいずれか）を行う。
- ・産学共同研究、起業看護職（自営等も含む）の研究倫理審査での利益相反委員会との連携を行う。
- ・その他、研究倫理審査に関わる事項の検討をする。

#### **(15) 災害看護支援委員会（近藤暁子理事）**

- ・災害に関するセミナー、シンポジウム、講演会などに参加して、必要な災害看護支援や研究課題に関する情報収集を行う。
- ・第42回学術集会（2022年12月）において交流集会を実施する。
- ・JANS会員のCOVID-19支援状況および所属機関からのサポート、必要としている支援に関する調査を行い、論文としてまとめる。

#### **(16) 若手研究者助成選考委員会（亀井智子理事）**

- ・2022年度の募集について
  - ① 海外学術集会への出席について  
2022年4月1日から随時募集を受け付ける。
  - ② 海外留学について  
2021年11月22日から12月24日までを申請期間として募集活動を行う。

#### **(17) 会則等委員会（石橋みゆき理事）**

- ・既存の申し合わせ事項の会則との整合性の確認  
各種申し合わせ及び内規と定款及び定款細則との整合性の点検を行い、修正すべき点を洗い出す。
- ・定款の改正の必要性の検討
  - ① 学会の中期目標をふまえて行われる新事業の創設、実施にあたり、定款との整合性を確認・点検する。
  - ② 和文誌の筆者要件と会員の権利について、変更点をふまえ定款の表現を点検する。
- ・その他  
随時、規定等の見直しの必要性を検討する。

#### **(18) COVID-19 看護研究等対策委員会（須釜淳子理事）**

- ・「新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会会員の研究活動への影響」第2回調査を実施。

- ・調査結果から after-with コロナ時代の看護研究促進に向けた方針を作成する。

#### **(19) 総務委員会（中村幸代理事）**

- ・入会審査を行う。
- ・会員管理データシステムの稼働状況を把握と課題を明確にして改善策を検討する。
- ・事務所職員の業務内容を整理し効率化を図る（働き方改革を促進する）。
- ・各事務所職員に年間目標を立案してもらい、結果を職員と共に評価する。
- ・各事務所職員の所掌業務に関するマニュアルの見直しを促し修正する。
- ・事務所職員が各委員会委員長との連携を強化し、各事業へのサポート機能を充実できる  
よう働きかける。

#### **(20) 選挙管理委員会（中村幸代理事）**

- ・2023年選出代議員選挙実施
- ・2023年選出役員候補者選挙準備・実施

#### **(21) 他機関との連携（法橋尚宏副理事長／大久保暢子理事）**

下記の各機関と連携し、依頼事項に対応する。

- ① 日本看護系学会協議会
- ② 看護系学会等社会保険連合（看保連）
- ③ 日本学術会議

2022年度 収支予算書(案)

2022年4月1日から2023年3月31日

公益社団法人 日本看護科学学会

科目	公益目的事業						収益事業等			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業	計		
<b>I 一般正味財産増減の部</b>											
<b>1. 経常増減の部</b>											
<b>(1) 経常収益</b>											
<b>受取会費</b>											
正会員受取会費					50,600,000	50,600,000			0	50,600,000	101,200,000
賛助会員受取会費					250,000	250,000			0		250,000
<b>事業収益</b>											
学会誌収益(講演集含む)		377,000				377,000			0		377,000
著作権料		3,200,000				3,200,000			0		3,200,000
学会誌収益その他		300,000				300,000			0		300,000
セミナー収益	3,120,000	1,130,000				4,250,000			0		4,250,000
学術集会参加費			42,500,000			42,500,000			0		42,500,000
広告販売収入							9,911,000		9,911,000		9,911,000
懇親会収入										750,000	750,000
<b>寄付金・助成金</b>			3,500,000			3,500,000					3,500,000
<b>雑収益</b>											
受取利息										1,000	1,000
その他の雑収入											
<b>経常収益計</b>	3,120,000	5,007,000	46,000,000		50,850,000	104,977,000	9,911,000		9,911,000	51,351,000	166,239,000
<b>① 事業費</b>											
学会誌発行費		30,770,000				30,770,000					30,770,000
受賞論文表彰費		1,500,000				1,500,000					1,500,000
支払助成金	3,000,000					3,000,000					3,000,000
会場費	252,000	290,000	15,443,358	250,000		16,235,358	274,642		274,642		16,510,000
会議費	186,000	179,000	1,238,966	30,000		1,633,966	22,034		22,034		1,656,000
旅費交通費	2,118,875	1,044,183	613,668	435,387		4,212,113	12,343	2,925	15,268		4,227,381
消耗品費	418,664	134,101	2,483,940	112,719		3,149,424	48,318	8,479	56,797		3,206,221
通信運搬費	1,388,327	223,203	6,605,753	71,438		8,288,721	125,763	16,958	142,721		8,431,442
印刷製本費	7,141,642	139,862	17,461,165	121,266		24,863,935	310,939	844	311,783		25,175,718
委託費	4,688,772	1,243,758	9,575,780	1,228,771		16,737,081	52,514	52,514	105,028		16,842,109
諸謝金	1,647,000	150,000	1,150,000	200,000		3,147,000					3,147,000
雑費	1,106,851	347,250	2,511,507	36,866		4,002,474	56,676	24,578	81,254		4,083,728
賃借料	1,200,439	461,707	1,135,750	59,257		2,857,153	39,504	39,504	79,008		2,936,161
租税公課	60,441	47,657	485,211			593,309	228,159		228,159		821,468
通勤手当	475,495	182,882	449,872	23,472		1,131,721	15,648	15,648	31,296		1,163,017
退職給付費用	323,635	124,476	306,196	15,975		770,282	10,650	10,650	21,300		791,582
福利厚生費	1,123,264	432,025	1,062,734	55,447		2,673,470	36,965	36,965	73,930		2,747,400
光熱水料費	153,602	59,078	145,325	7,582		365,587	5,055	5,055	10,110		375,697
修繕費	12,448	4,788	11,777	614		29,627	409	409	818		30,445
火災保険料	20,912	8,043	19,785	1,032		49,772	688	688	1,376		51,148
減価償却費	4,014	1,772	1,858	192		7,836	126	219	345		8,181
給料手当(委員会等人件費含む)	6,671,940	2,429,977	6,079,687	448,018		15,629,622	205,346	205,346	410,692		16,040,314

科目	公益目的事業						収益事業等			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業	計		
<b>②管理費</b>											
学会総会費										520,000	520,000
社員総会費										3,400,000	3,400,000
理事会費										2,580,000	2,580,000
会議費										92,000	92,000
旅費交通費										409,619	409,619
消耗品費										918,779	918,779
通信運搬費										3,435,558	3,435,558
印刷製本費										180,282	180,282
委託費										3,304,891	3,304,891
諸謝金										673,000	673,000
雑費										1,179,272	1,179,272
賃借料										1,885,839	1,885,839
租税公課										18,532	18,532
通勤手当										746,983	746,983
退職給付費用										508,418	508,418
福利厚生費										1,764,600	1,764,600
光熱水料費										241,303	241,303
修繕費										19,555	19,555
火災保険料										32,852	32,852
減価償却費										13,174	13,174
渉外費										14,000	14,000
慶弔費										50,000	50,000
支払負担金										430,000	430,000
懇親会費										2,068,000	2,068,000
給料手当（委員会等人件費含む）										9,892,686	9,892,686
<b>経常費用計</b>	31,994,321	39,773,762	66,782,332	3,098,036		141,648,451	1,445,779	420,782	1,866,561	34,379,343	177,894,355
<b>当期経常増減額</b>	△ 28,874,321	△ 34,766,762	△ 20,782,332	△ 3,098,036	50,850,000	△ 36,671,451	8,465,221	△ 420,782	8,044,439	16,971,657	△ 11,655,355
<b>2. 経常外増減の部</b>											
(1) 経常外収益											
<b>経常外収益計</b>											
(2) 経常外費用											
<b>経常外費用計</b>											
<b>当期経常外増減額</b>											
<b>他会計振替額</b>					8,118,882	8,118,882	△ 8,118,882		△ 8,118,882		
<b>税引前当期一般正味財産増減額</b>	△ 28,874,321	△ 34,766,762	△ 20,782,332	△ 3,098,036	58,968,882	△ 28,552,569	346,339	△ 420,782	△ 74,443	16,971,657	△ 11,655,355
<b>法人税、住民税及び事業税</b>							70,000		70,000		70,000
<b>当期一般正味財産増減額</b>	△ 28,874,321	△ 34,766,762	△ 20,782,332	△ 3,098,036	58,968,882	△ 28,552,569	276,339	△ 420,782	△ 144,443	16,971,657	△ 11,725,355

注1 従来形式の収支予算書で表示されている各委員会費支出、学術集会費支出は、事業の目的別に区分をし、各費用科目に予算を計上している。

注2 従来形式の収支予算書の事業費、管理費は科目ごとに一定の配賦割合（面積割合や従事割合など）に基づき、本収支予算書の事業費、管理費に配賦されている。

注3 従来形式の収支予算書に表示されている「退職給付支出」「資格喪失者会費支出」は本予算書には算入しない。

注4 従来形式の収支予算書に表示されていない「減価償却費」、「退職給付費用（要積立額）」を本予算書に計上している。



2022年度 事業活動収支予算書(案)  
2022年 4月 1日 から2023年 3月 31日 まで

科 目	補足	2022年度 予算額 (2022. 4. 1~ 2023. 3. 31)	2021年度 2次補正予算額 (2021. 4. 1~ 2022. 3. 31)	差異
<b>1. 事業活動収入</b>				
<b>①会費収入</b>		<b>101,450,000</b>	<b>101,750,000</b>	<b>△ 300,000</b>
正会員会費収入	※1	101,200,000	101,500,000	△ 300,000
賛助会員会費収入	※2	250,000	250,000	0
<b>②公益目的事業収入</b>		<b>54,127,000</b>	<b>42,769,000</b>	<b>11,358,000</b>
学術振興事業収入		3,120,000	1,935,000	1,185,000
JANSセミナー	※3	3,120,000	1,935,000	1,185,000
学会誌事業収入		5,007,000	2,624,000	2,383,000
学会誌販売収入		377,000	456,000	△ 79,000
著作権料収入	※4	3,200,000	738,000	2,462,000
学会誌収入その他	※5	300,000	300,000	0
JJNSセミナー	※6	1,130,000	1,130,000	0
学術集会事業収入		46,000,000	38,210,000	7,790,000
学術集会参加費収入		42,500,000	37,810,000	4,690,000
事前登録会員 (10,000円)		20,000,000	30,800,000	△ 10,800,000
事前登録非会員 (12,000円税込)		5,400,000	7,000,000	△ 1,600,000
事前登録学部生		0	0	0
事前登録海外オンライン (2,000円)		140,000	10,000	130,000
当日登録会員 (12,000円)		12,000,000	0	12,000,000
当日登録非会員 (14,000円税込)		4,900,000	0	4,900,000
当日登録学部生	※7	0	0	0
当日登録海外オンライン (2,000円)		60,000	0	60,000
寄附金・助成金		3,500,000	400,000	3,100,000
寄附金		500,000	0	500,000
助成金		3,000,000	400,000	2,600,000
<b>③収益事業等収入 (広告販売収入)</b>		<b>9,911,000</b>	<b>2,144,000</b>	<b>7,767,000</b>
企業展示出展料		5,148,000	0	5,148,000
広告掲載料		2,123,000	1,144,000	979,000
ランチョンセミナー		2,640,000	1,000,000	1,640,000
<b>④法人会計収入</b>		<b>751,000</b>	<b>1,000</b>	<b>750,000</b>
親類会収入	※8	750,000	0	750,000
特定資産受取利息収入		500	500	0
受取利息収入		500	500	0
<b>事業活動収入合計 (I a)</b>		<b>166,239,000</b>	<b>146,664,000</b>	<b>19,575,000</b>
<b>2. 事業活動支出</b>				
<b>①公益目的事業支出</b>		<b>111,427,000</b>	<b>92,590,000</b>	<b>18,837,000</b>
学術振興事業支出		19,150,000	18,233,000	917,000
研究・学術推進委員会費支出	※9	1,540,000	465,000	1,075,000
看護ケア開発・標準化委員会		10,120,000	9,770,000	350,000
若手研究者活動推進委員会費支出		587,000	487,000	100,000
国際活動推進委員会費支出		620,000	700,000	△ 80,000
COVID-19看護研究等対策委員会費支出		300,000	400,000	△ 100,000
看護学学術用語検討委員会費支出		628,000	767,000	△ 139,000
看護倫理検討委員会費支出		363,000	535,000	△ 172,000
災害看護支援委員会支出	※10	400,000	100,000	300,000
研究倫理審査委員会費		140,000	94,000	46,000
若手研究者助成選考委員会		60,000	100,000	△ 40,000
若手研究者助成金支出	※11	3,000,000	3,000,000	0
JANSセミナー開催費	※12	1,392,000	1,815,000	△ 423,000
学会誌事業支出		34,809,000	33,789,000	1,020,000
和文誌編集委員会費支出		115,000	315,000	△ 200,000
和文誌編集費支出	※13	10,870,000	9,640,000	1,230,000
英文誌編集委員会費支出		940,000	940,000	0
英文誌編集費支出		19,900,000	19,800,000	100,000
表彰論文選考委員会費支出		354,000	271,000	83,000
受賞論文表彰費支出		1,500,000	1,693,000	△ 193,000
JJNSセミナー開催費		1,130,000	1,130,000	0
学術集会費支出		55,001,000	39,058,000	15,943,000
当年度開催学術集会	※14	51,777,000	36,242,000	15,535,000
次年度開催学術集会 (準備期間)	※15	3,224,000	2,816,000	408,000
市民講座等事業支出		2,467,000	1,510,000	957,000
社会貢献委員会支出 (市民フォーラム開催費含む)	※16	977,000	705,000	272,000
広報委員会費支出 (公益目的事業分)	※17	1,490,000	805,000	685,000

科 目	補足	2022年度 予算額 (2022. 4. 1～ 2023. 3. 31)	2021年度 2次補正予算額 (2021. 4. 1～ 2022. 3. 31)	差異
<b>②管理費支出</b>		<b>65,446,000</b>	<b>59,986,000</b>	<b>5,460,000</b>
給料手当支出	※18	25,065,000	24,770,000	295,000
福利厚生費支出		4,512,000	4,350,000	162,000
通勤費支出		1,910,000	1,910,000	0
退職給付支出		300,000	300,000	0
学会総会費	※19	520,000	500,000	20,000
社員総会費	※20	3,400,000	2,165,000	1,235,000
理事会費	※21	2,580,000	1,478,000	1,102,000
委託費支出	※22	6,410,000	10,925,000	△ 4,515,000
人件費支出		40,000	50,000	△ 10,000
渉外費支出		14,000	20,000	△ 6,000
旅費交通費支出		357,000	330,000	27,000
通信運搬費支出		2,070,000	2,190,000	△ 120,000
消耗品費支出		1,035,000	1,200,000	△ 165,000
印刷製本費支出		103,000	62,000	41,000
慶弔費支出		50,000	50,000	0
光熱水料費支出		617,000	737,000	△ 120,000
賃借料支出	※23	4,822,000	4,283,000	539,000
保険料支出		84,000	84,000	0
諸謝金支出		50,000	50,000	0
租税公課支出		840,000	650,000	190,000
負担金支出		430,000	430,000	0
修繕費支出		50,000	50,000	0
雑支出	※24	3,000,000	2,460,000	540,000
懇親会運営費支出	(※8)	2,068,000	0	2,068,000
委員会活動費支出		5,119,000	942,000	4,177,000
総務委員会費支出		10,000	20,000	△ 10,000
利益相反委員会費支出		135,000	109,000	26,000
広報委員会費支出(法人会計分)	(※17)	20,000	20,000	0
会則等検討委員会費支出		660,000	700,000	△ 40,000
選挙費用支出	※25	4,294,000	93,000	4,201,000
<b>③その他支出</b>		<b>2,200,000</b>	<b>2,200,000</b>	<b>0</b>
資格喪失者会費支出		2,200,000	2,200,000	0
<b>事業活動支出合計(I b)</b>		<b>179,073,000</b>	<b>154,776,000</b>	<b>24,297,000</b>
<b>事業活動収支差額(I a)-(I b)</b>		<b>△ 12,834,000</b>	<b>△ 8,112,000</b>	<b>△ 4,722,000</b>

- ※1 2022年4月1日時点での会員数を10,000名、新入会者・再入会者800名、資格喪失者680名と見積もり、合計10,120名分を会費収入として計上。
- ※2 (株)日本看護協会出版会(2口)、(株)医学書院・(株)南江堂・(株)へるす出版(各1口)。賛助会費1口5万円。
- ※3 第20回JANSセミナー参加費収入(156万円)、第21回JANSセミナーの参加費収入(156万円)。
- ※4 和文誌・英文誌の著作権料。学術著作権協会の計算手順の指標見直しに伴う増額が見込まれる。
- ※5 和文誌(会員外の共著者投稿料)、英文誌(会員外の超過ページ課金)。
- ※6 2022年JJNSセミナー参加費収入(113万円)。
- ※7 第42回学術集会の参加費、寄附金、協賛金などの収入。
- ※8 第42回学術集会の企画であるが参加者の交流の場であることから公益目的事業(事業費)ではなく法人会計(管理費)に含む。
- ※9 大型研究支援(申請書レビュー等)および、大型研究・データアーカイブ化などへの助言に対する費用を増額している。
- ※10 交流集会、会員動向調査などに伴う費用を計上している。
- ※11 助成資金積立金から取崩して助成金の支出に充当する。
- ※12 第20回と第21回の開催費用。両セミナーともWeb開催を予定している。
- ※13 2021年度実績による投稿論文の増加にくわえ、会員外の共著及び、迅速査読の導入により投稿論文の更なる増加と編集作業の増加が見込まれるため増額している。
- ※14 第42回学術集会に関わる開催年度の費用。(開催地：広島県)
- ※15 第43回学術集会に関わる開催前年度の費用。(開催地：山口県)
- ※16 市民公開講座のアーカイブ化、社会貢献事業の新規格を検討・開催・評価をおこなう。
- ※17 広報用動画の作成費用を増額している。  
【広報委員会の活動費のうち、公益目的事業に関わる費用を事業費に計上している。(学術集會会期中の写真撮影費、市民公開講座のフライヤー制作費など)。<会議費>を管理費に計上している。】
- ※18 正職員5名、パート2名(週1～3日勤務)の給与・賞与および、社会保険料、健康診断料など。
- ※19 学会総会1回開催(12月広島/貸し会議室使用)
- ※20 社員総会2回開催(6月東京・12月広島/貸し会議室使用)
- ※21 理事会6回開催(5月、6月、9月、10月、12月、2月/うち6月・12月は貸し会議室使用)。

- ※22 前年に英文ホームページのリニューアルをおこなったため差額がでている。  
【法人として必要】  
会計事務所(150万円)＜会計顧問料(78万)、内閣府提出書類作成料(11万)、社会保険労務士(33万円)、変更認定書類作成(28万円)  
＞、公認会計士監査報酬(36万円)、顧問弁護士(40万円)  
【学会事業に直接必要】  
会員管理システム利用料(266万円)＜基本利用料(112万)、会費コンビニ決済機能(27万)、学術集会参加登録・行事管理機能(79万)、クレジット決済機能(33万円)、アンケート機能(15万)＞、JANSホームページ年間維持更新管理料(77万円)、翻訳費用(19万円)、Web会議システムZoom(13万円)、封入・発送手数料(19万円)  
【事務所運営費】  
事務所警備委託費(21万円)
- ※23 複合機の機種更新に伴いリース料を増額。旧機種はリース資産に計上しリース債務返済の会計処理をしていたが、新機種は賃借料での会計処理となる。
- ※24 会費回収手数料(うちよ・コンビニ)の改定に伴い増額している。
- ※25 代議員選挙と役員選挙にかかる費用。選挙積立金から取崩して選挙費用に充当する。

第44回日本看護科学学会学術集会会長の承認

第44回（2024年度）日本看護科学学会学術集会会長 候補者

前田ひとみ（熊本大学）

# 今期（2021年度から2022年度）の活動方針について

公益社団法人日本看護科学学会  
理事長 堀内 成子

この数年間、世界は新型コロナウイルスの感染拡大による大きな停滞を余儀なくされたが、ワクチン接種の普及、特効薬の開発などにより、With コロナから After コロナの新たな世界に移りつつある。

日本看護科学学会も新たな体制となり、今期理事会（2021年度から2022年度）の活動方針として、前期の「若手研究者活性化」を引継ぎつつ、新たな事業を展開し、看護学学会初の会員1万人超の学会として充実を図っていききたい。

## I. 活動方針

### 1. 若手研究者の育成

- ①論文公表の場（和文誌・英文誌）
- ②研究能力向上（大型研究費の獲得・若手研究者支援・ガイドライン作成）
- ③国際化の促進（学会発表助成・海外研究助成）

関連委員会：

和文誌編集委員会・英文誌編集委員会・研究・学術推進委員会  
国際活動推進委員会・若手研究者活動推進委員会・表彰論文選考委員会

### 2. 研究活動の推進

- ①研究助成制度の創設
- ②社会貢献の推進
- ③研究倫理体制の充実
- ④COVID-19 関連研究の推進
- ⑤他学問分野の学会との連携

関連委員会：

看護学学術用語検討委員会・社会貢献委員会・看護倫理検討委員会  
災害看護支援委員会・広報委員会・利益相反委員会  
研究倫理審査委員会・看護ケア開発・標準化委員会

### 3. 将来を見据えた法人運営

- ①会則の整備
- ②財産の検討
- ③事務局環境の改善による事務処理の効率化

関連委員会：

会則等委員会・総務会

## II. 活動手法

理事が委員長を務める各委員会には活動方針の十分な理解、活動目的に対する「TO DO」の作成と目標を達成するための KPI を設定した。

### III. 各委員会の目標について (TO DO含む)

委員会名	2年間のゴール
和文誌編集委員会	1. 投稿論文数の増加 (年間200本) 2. 査読日数の短縮 (通常査読の初回返事までの日数の中央値30日以下)
英文誌編集委員会	1. 日本のNursing Scienceの発展と推進: 英文誌発刊による学術成果の共有とさらなる促進 2. 投稿論文の促進: 特に若手研究者の育成
表彰論文選考委員会	1. 表彰論文の厳正な選考 2. 学術集会演題賞の厳正な選考
研究・学術推進委員会	1. 会員の研究の支援活動の発展 2. JANSセミナーの充実
看護ケア開発・標準化委員会	診療ガイドライン完成またはレビュー論文の投稿と若手研究者の育成
若手研究者活動推進委員会	若手研究者からの和文誌・英文誌・国際助成への投稿/応募の増加
国際活動推進委員会	若手を中心に国際学会での研究発表の増加、国際的な研究活動への参加支援
看護学学術用語検討委員会	JANS看護学学術用語の電子システムの構築と実装
社会貢献委員会	1. 学術集会と協働し市民公開講座を開催し、人々の健康と福祉に貢献する。 2. 新しい社会貢献の方略を模索し、有用性の高い社会貢献方法を確定する。 3. 市民公開講座をアーカイブ化することで、会員への継続情報提供を可能にする。
広報委員会	1. 広報活動を継続する。 2. デジタル広報を積極的に進め、ソーシャルメディアを活用した広報をする。 3. 公式ウェブサイトのトラフィックが増加する。
看護倫理検討委員会	1. 看護学が関連する倫理的な社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。 2. 研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。
利益相反委員会	会員の研究活動等に伴う利益相反全般に関する規定等の整備と情報発信
研究倫理審査委員会	会員の研究推進のための倫理審査体制の更なる充実
災害看護支援委員会	JANS会員及びその所属機関が災害支援 (特にCOVID-19の支援) に必要な準備を行えるような支援を検討する。
若手研究者助成委員会	申請件数20件、公平ではなく必要性が高く効果の大きい順に優先順位をもって助成金を交付する。
会則等委員会	将来を見据えた新規事業創設に伴う会則整備
COVID-19看護研究等対策委員会	調査結果に基づきafter/with コロナ時代の看護研究促進に向けたJANSの方針を理事会に提案する。
総務委員会	会員管理および事務所運営を円滑に行うことにより、学会活動の推進に資する。

TO DO
1. 2021年度 投稿規程等の改定 2. 2022年度 改定した投稿規程の評価
1. インパクトファクターの向上：前年（1.418）より向上 2. 日本人著者の投稿数増加：120編以上/年 3. 最初の査読結果までの期間の短縮：35日以内
1. 表彰論文の厳正な選考 委員の増員、一次選考、二次選考のプロセスの確認と最終選考、総会での表彰 2. 学術集会演題賞の厳正な選考 委員の増員、選考プロセスの確認と学術集会当日の最終選考、閉会式での表彰
1. 会員の研究の支援活動の発展 大型研究費の獲得支援活動、オンラインジャーナルクラブの実施の検討 2. JANSセミナーの充実 JANSセミナーの開催（2回）、JANSセミナーのアーカイブ化
1. 高齢者尿失禁ケアガイドライン：ガイドライン完成 2. 下部消化管術後患者の長期的排便障害のケアガイドライン構築のためのアセスメントガイドライン：レビュー論文の投稿 3. 看護ケアのための高齢者の便秘時の大腸便貯留アセスメントに関する診療ガイドライン：ガイドライン完成 4. 薬理学会との共同学術企画 スコーピングレビュー「インスリンポール」：レビュー論文の投稿
1. 若手研究者の育成：論文公表の場(和文誌・英文誌) 2. 研究能力向上(大型研究費の獲得・若手研究者支援・ガイドライン作成) 3. 国際化の促進(学会発表助成・海外研究助成)
1. 国際学会での研究発表の増加 2. 国際的研究活動への参加支援 3. 異文化データベースの更新 ※WANS事務局のスムーズなTransition
1. JANS看護学術用語を掲載する電子システムを構築し公表する。 2. 新学術用語を追加するための募集要項や審査基準を作成し、新看護学術用語を電子システムに追加する。 3. 上記1、2をグローバル展開するために英語版を公開する。
1. 人々の健康と福祉に貢献するために、市民公開講座の満足度を10点満点中8点以上を維持する。（ゴール1） 2. 過去の委員会活動（ナースングサイエンスカフェ等）を参考に、次世代育成事業の新しい方略を立案・試行・有用性を評価する。（ゴール2） 3. 3委員会が協働し。オンラインジャーナルクラブ案の作成、実施を行い、有用性を評価する。（ゴール2） 4. 第16期の市民公開講座のアーカイブ化を実施し、会員への継続的提供のために会員メニューに公開する。（ゴール3）
1. 広報活動を確実に実施 2. FacebookページとYouTubeチャンネルの登録者数が各500名、会員向けのニュースレター発行数が累計10通 3. 公式ウェブサイト訪問者数が10%増加
1. 倫理的社会事象から本委員会できり進む課題を明確化する。 2. 学術集会交流集会以情報交換や啓発活動を行う。
1. 日本看護科学学会における学術活動の利益相反マネジメント指針の変更 2. 日本看護科学学会における学術活動の利益相反マネジメント指針の細則の変更 3. COI自己申告書の変更
1. 最新の研究倫理に関する情報提供 2. 会員、中でも所属機関に倫理審査の体制がない（もしくは所属がない会員）研究倫理審査の実施 3. 産学共同研究、起業看護職（自営等も含む）の研究倫理審査での利益相反委員会との連携
1. 第42回学術集会（2022年度）において交流集會を企画する。 2. コロナ患者の対応を本務としていないJANS会員（教員、大学院生など）のCOVID-19支援の現状及び所属機関からのサポートに関する調査を行い、論文として投稿する。 3. 災害に関するセミナー、シンポジウム、講演会などに参加して必要な災害看護支援や研究課題に関する情報収集を行う。
1. 助成金対象事業の成果等のPR：ホームページ、JANS42などの利用 2. 需要の高い申請案件を優先させるような審査方法の検討と申請書類への反映
1. 定款と既存の申し合わせ等下位会則との整合の確認 2. 学会の将来構想を踏まえた会則の整備
1. 第2回目調査と結果の公開 2. データオープン化に向けた体制整備
1. 入会条件を満たしているかの確認・会員管理を円滑に行う。 2. 事務所運営を円滑に行う。 上記の1、2より学会活動の推進に資する。